Conference Approval Track
WSC 2026: 3–9 May

Our Common Welfare

- イントロダクションと動議
- 2026–2029 提案プロジェクト計画
- 2026–2029 提案予算および予算説明
- WSC議席報告（リクエストを含む）
  ワールドボードからの報告および動議
- WSCの提案プロセス
- 2026–2029 旅費精算ポリシー
- 検討対象のリージョナルアイデア

2026年カンファレンス・アプローバル・トラック：イントロダクション

カンファレンス・アプローバル・トラック（CAT）資料は、na.org/conference に掲載されており、このイントロダクションの後に続きます。
CATのほとんどの項目は、WSCのCAT関連ディスカッション＆決定セッションで決定されます。例外は、2026年WSCの提案プロセスに関する動議です。これらは2026年カンファレンスで使用されるプロセスの提案であるため、CAR関連ディスカッション＆決定セッションの冒頭で紹介されます。

2026年CATに含まれるものは以下の通りです：
・このイントロダクション（動議一覧を含む）
・2026–2029 提案プロジェクト計画
・2026–2029 提案予算および予算説明
・WSC議席報告（リージョンからのリクエストおよびワールドボードからの報告を含む）
・WSC提案プロセス
・2026–2029 旅費精算ポリシー
・検討対象のリージョナルアイデア
このイントロダクションでは、CATの各構成要素を非常に簡単にまとめています。詳細については、CATの各コンポーネントを確認してください。カンファレンスが決定する課題は青字で強調されており、決定対象の項目に注意が向くようになっています。イントロダクションの最後には、ワールドボードがCAT資料に関連して提出する動議の一覧が掲載されています。

2026–2029 提案プロジェクト計画

今回のサイクルでは、以下の10のプロジェクトを提案しています：
・PRサービスによるフェローシップ認知と関与
・NAの社会的認知向上
・新しい回復情報小冊子
・既存の回復情報小冊子の改訂
・課題ディスカッショントピック（IDT）
・新規および改訂サービスツール
・安全性と帰属意識／ジェンダー・ニュートラルな言語
・DRT/MAT — メンバーが根を張る手助け
・世代および文化の多様性
・3年間のカンファレンスサイクル
CATのプロジェクト計画セクションでは、作業範囲が説明されています。各計画には、関連する戦略計画の目的やCARサーベイ項目が含まれています。
WSCは、新規および改訂IPやサービス資料、さらにIDTの計画の焦点を決定します。その判断には、CARサーベイの結果が参考にされます。プロジェクト計画におけるCARサーベイの役割の詳細は、カンファレンスアジェンダレポートのCARサーベイエッセイをご参照ください。参加者には、各プロジェクト計画の優先度を高・中・低で示すよう求められます。この優先順位付けは通常、WSCの最終日に行われます。私たちの計画では、すべてのプロジェクト作業を、フォーカスグループ、

ウェブミーティング、サーベイ、オンライン入力フォームの組み合わせによるバーチャル形式で行います。WSC終了後、Current Projects セクションの na.org/projects に掲載されているフォーカスグループボランティアフォームを更新し、関心のあるメンバーが記入できるようにします。
この方法により、より幅広く国際的な参加が可能になるだけでなく、常設ワーキンググループを利用するよりも経済的で迅速なプロジェクト遂行が可能になります。
決定事項：各プロジェクト計画を承認するための個別動議が提出されます。
また、カンファレンスは、CARサーベイの結果を参考にしながら、文献、サービス資料、課題ディスカッショントピック（IDT）プロジェクトの焦点を決定します。加えて、WSCの時間が許す範囲で、他のプロジェクト計画に対する提案も行われます。

2026–2029 提案予算および予算説明

CAT資料には、提案予算とともに、予算や使用している用語・分類について説明するカバーエッセイが含まれています。これは、WSCで決定される初めての3年間予算です。
予算説明エッセイは、予算に関する一般的な質問の多くに答える内容になっています。また、カンファレンスやCPウェビナーでは、より具体的な質問をする時間も設けられています。
質問がある場合は、wb@na.org にメールで問い合わせることもできます。
決定事項：2026–2029年NAワールドサービス（NAWS）予算を承認するための動議が提出されます。

WSC議席レポート（リージョンからの申請およびワールドボードのエッセイを含む）

2025年の中間WSCでは、2023–2026サイクルにおいて議席ワークグループを使用しないという動議が可決されましたが、その方法は問題なく機能しました。期限までに2つのリージョンが議席申請を行い、本CAT資料には、それぞれのリージョンから提出された記入済みの議席申請書と、それに先立つワールドボードによる導入文が含まれています。また、『NAにおけるワールドサービスのガイド（GWSNA）』に記載されている議席に関するポリシー、ならびに議席に関する背景情報や最近のWSCの決定事項も収録されています。
議席セクションの導入文で説明されているとおり、ワールドボードはWSC 2026における議席について、いかなる勧告も行っていません。ただし、期限までに申請を行った2つのリージョンを議席に就けるための動議を提出します。もしワールドボードがこれらの動議を提出しなかった場合、経験上、他のカンファレンス参加者が同様の動議を提出することが分かっています。CAT動議の一覧に含めることは、より効率的であり、参加者がこれらの動議を検討するための時間をより多く確保できると考えました。
決定事項：ワールドボードはいずれのリージョンを議席に就けるかについて勧告は行いませんが、期限までに申請を行った2つのリージョンに関する議席動議を含め、WSCがこれらの決定を行えるようにします。

WSCのための提案プロセス

ワールドボードは、WSCコ・ファシリテーターを代表して、WSCプロセスに関する2つの動議を提出します。1つ目は、GWSNAからロールコール投票を削除する提案です。2つ目は、新たな情報が明らかになった場合に、カンファレンス参加者が決定の再考を求めることができるプロセスを正式に定めるものです。これら2つのCAT動議に加えて、このCATの該当セクションでは、WSCの「Moving Forward」セッション中に参加者が判断を求められる可能性のある事項についても示唆しています。本文にあるとおり、「WSCでは、新しいプロセスを恒常的に採用するかどうかを決定

する前に、1サイクルまたは1回のカンファレンスで試験的に実施することがよくあります。通常、WSC最終日のMoving Forwardセッションにおいて判断されます。これにより、新しいプロセスを試行し、必要な調整を行った上で、継続的なポリシーとして採用することができます。」
現在、カンファレンスが「試運転」しているプロセスは3つあります。

- 新しいCARサーベイのプロセス（リージョンおよびゾーンが、プロジェクト計画を作成する動議を提出する代わりに、サービス資料、回復文献、IDTのアイデアをサーベイ項目として提出する点を含む。GWSNA 20–21頁参照）
- 最初のストローポールでコンセンサスが得られた場合の意思決定方法
- 議席ワークグループを使用しないこと

最初の2点はCATの「提案プロセス」セクションの最後で、3点目は議席レポートにおけるワールドボード導入文の最後で言及されています。
決定事項：CAR関連ディスカッションおよび決定セッションの冒頭で、2つの動議について決定が行われます。ロールコール投票を削除する動議、決定を再考するためのプロセスを確立する動議。

2026–2029年 旅費償還ポリシー

各WSCは、次のサイクルに適用される旅費償還ポリシーを承認し、それは『NAにおけるワールドサービスのガイド』に掲載されます。このポリシーは、NAWSのトラベラーに対してどのような費用が補償されるか、ならびに関連する方針を定めています。次期サイクルに向けて、主に2つの変更を提案しています。1つ目は、すべてのトラベラーは引き続き経費報告書を提出する必要がありますが、領収書が必要となるのは、日当（食事・雑費）を超えた場合、航空券やその他の交通費、旅行に付随する追加費用の場合のみとする点です。2つ目は、食事・雑費について米国政府の基準レートを使用することで、会計上の裏付け資料を減らす点です。米国内の移動について、現在の1日あたりのレートは、大都市で86ドル、その他の地域で74ドルです。今回、1日75ドル（2023–2026サイクルから5ドル増）を提案しています。また、必要と判断された場合、次回WSCまでの間に、カンファレンス参加者へ報告した上で、ワールドボードがレートを引き上げる裁量を持つことも提案しています。
WSC 2026は、2023–2026年の旅費償還ポリシーのもとで運営されます。WSCへの渡航に関する質問は、elaine@na.org までお問い合わせください。
決定事項：2026–2029年旅費償還ポリシーを採択する動議が提出されます。

検討のためのリージョン提案

リージョンは、1月3日の締切までに、CATとともに掲載される資料を提出することができました。アリゾナ・リージョンから、WSCでの検討を求めるアイデアが提出されています。

NAへのあなたのサービスに感謝します。
敬意と感謝を込めて
ワールドボード

動議一覧

ワールドボードは、本CAT資料に関連する以下の16の動議を提出する予定です。これらは後続のページで詳しく説明されています。動議19および20を除き、すべてWSCにおけるCAT関連ディスカッションおよび決定セッションで決定されます。動議19および20は、カンファレンス全体を通して使用されるディスカッションおよび意思決定プロセスに関わるため、CAR関連ディスカッションおよび決定セッションの冒頭で扱われます。

カンファレンス参加者は、na.org/conference に掲載されているフォームを使用して、以下の動議またはCAR動議に対する修正案を提出できます。締切は3月3日、最終版の提出期限は3月18日です。

- **動議6**：PRサービスとの連携によるフェローシップ認知・関与プロジェクト計画を承認する
- **動議7**：NAの社会的認知向上プロジェクト計画を承認する
- **動議8**：新しい回復情報パンフレットのプロジェクト計画を承認する
- **動議9**：既存の回復情報パンフレット改訂プロジェクト計画を承認する
- **動議10**：課題討議トピック（IDT）プロジェクト計画を承認する
- **動議11**：新規および改訂サービスツールのプロジェクト計画を承認する
- **動議12**：安全性と所属感／ジェンダーニュートラル言語プロジェクト計画を承認する
- **動議13**：DRT／MAT ― メンバーが根付くことを支援するプロジェクト計画を承認する
- **動議14**：世代間および文化的多様性プロジェクト計画を承認する
- **動議15**：3年制カンファレンス・サイクルのプロジェクト計画を承認する
- **動議16**：2026–2029年NAワールドサービス（Narcotics Anonymous World Services, Inc.）予算を承認する

注記：ワールドボードはWSC 2026における議席について勧告は行いませんが、以下の2つの動議を、カンファレンスでの意思決定を支援するために提出します。詳細はWSC議席レポートをご参照ください。

- **動議17**：アフガニスタン・リージョンを議席に就ける
- **動議18**：ブラジル・リージョン10を議席に就ける

注記：動議19および20はCAT動議ですが、即時に効力を持つプロセス動議であるため、WSCのCAR関連ディスカッションおよび決定セッションの冒頭で提出されます。可決された場合、WSC全体を通じてそのプロセスが適用されます。

- **動議19**：現在の実践を反映し、WSC 2026以降、GWSNA（68頁）から「ロールコール投票」を削除する。

  ~~ロールコール投票：いかなるメンバーもロールコール投票を要請できる。要請が認められ、会議体が支持した場合、ファシリテーターは直近のロールコールに登録された各参加者の名前を呼び、参加者は「賛成」「反対」「棄権」「出席・投票せず」のいずれかで応答する。~~

  意図： 意思決定において不要となった旧来のプロセスを削除するため。
- **動議20**：WSCプロセス（GWSNA 67頁）に、WSC 2026以降適用される、以下の決定再考オプションを追加する。

  12. 参加者は、同一のビジネスセッション（CAR関連決定、CAT関連決定など）において、最終決定と同じ立場に立っていたこと、かつ当初の討議では得られなかった新しい情報が提示された場合に限り、決定の再考を要請することができる。該当項目について討議を再開するかどうかは、コ・ファシリテーターの裁量に委ねられる。

  意図： 新たな情報が明らかになった場合に、決定を再考する機会を提供するため。
- **動議21**：2026–2029年旅費償還ポリシーを採択する。

Narcotics Anonymous World Services

Project Plans

2026–2029 Conference Cycle

A Vision for NA Service

ナルコティクス アノニマスの全ての活動は 我々の第一の目的に基づいている。
この共通意識で我々のグループは結ばれている。

私たちの展望：いつの日か

- 世界中のアディクトが、それぞれの母国語と文化に適応した形でこのメッセージを受け取ることができ、新しい生き方が見出せるように
- 回復を手にしたメンバーが、サービスを通じてスピリチュアルに成長し、充実感を得られるように
- 世界中のNAサービス機構が常に協力し合い、一体性を重んじて、グループのメッセージ活動をサポートするように
- 世界中でナルコティクス・アノニマスの活動と回復プログラムが認められ、人の役に立つように

Our Common Welfare

正直、信頼、善意がNAサービスの基盤であるが
それは全て愛なるハイヤーパワーの啓示に信頼を置くものである。

2026–2029年 NAWS プロジェクト計画

『NAにおけるワールドサービスのガイド（GWSNA）』は、ワールドボードに対し「すべての非定例のワールドサービス・プロジェクトについて、予算およびタイムラインを含むプロジェクト計画を策定する」ことを指示しています。ディスカッションを基盤とした協働的な組織体であるというワールドサービス・カンファレンス（WSC）のコミットメントに沿って、ここに提示するプロジェクト計画は、カンファレンスの関与を前提としています。

多くの場合、これらのプロジェクト計画は、NAWS戦略計画における目標、およびCARサーベイにおいてカンファレンス参加者が優先順位を付けた項目から直接生まれています。回復文献、サービス資料、課題討議トピック（IDT）に関するプロジェクト計画については、具体的な焦点は、カンファレンスが優先すると決定した作業内容に基づいて定められます。私たちは2016年以降、このアプローチを採用してきました。そこから生まれる洞察、協働、そして妥協こそが、強固なプロジェクト計画と、限られたリソースの最も慎重な活用につながると考えています。

前サイクルと同様、次のサイクルにおいても対面でのワークグループミーティングは予定していません。作業は、バーチャル・ワークグループ、公開ウェブミーティング、フェローシップからの意見を集めるオンライン・サーベイ、フォーカスグループを通じて行われます。バーチャル・フォーカスグループは、これまで以上に幅広く、多様なメンバーと関わることを可能にし、大きな恩恵をもたらしています。

念のためお伝えすると、メンバー参加の裾野を最大限に広げるため、na.org/projects にフォーカスグループ・ボランティア・フォームを掲載しています。WSC 2026終了後には、次期サイクルで必要と見込まれるプロジェクトやその他の作業内容を反映して、このフォームを更新する予定です。関心のあるメンバーは、ぜひ記入してください。また、草案やプロジェクト関連資料については、郵送ではなくオンライン掲載を継続する予定です。

会議や情報共有にテクノロジーを活用することで、プロジェクトにかかるコストは主として「機会コスト」に限定されます。つまり、これらのプロジェクトは予算に個別の項目として計上されてはいませんが、それでもすべてを同時に行うことはできません。時間、エネルギー、注意力には限りがあり、何かを優先するということは、別の何かを行わないという選択を伴います。

2026–2029年戦略計画と2026年CARサーベイを協働で策定したことにより、今回のプロジェクト計画は過去のサイクルとは異なるものになっています。私たちは、戦略計画とサーベイの両方で特定された優先事項が、ここに記載された作業内容に反映されるよう努めました。NAワールドサービスにおける最後の2つの目標――「ワールド・コンベンションの将来」と「NAWSの持続可能性」――は、これらの計画には含まれていません。これらは定例または不可欠なサービスとみなされ、ワールドボードの継続的な責務であるため、個別のプロジェクト計画を必要としないからです。それを除けば、戦略計画に含まれる他のすべての目標は、対応するプロジェクトの中に記載されています。

また、計画の各要素がどのようにつながっているかが分かりやすいよう、該当するプロジェクト計画の中にCARサーベイの一覧も再掲しています。新しい計画プロセスをさらに洗練させていく中で、NAWS戦略計画、CARサーベイ、プロジェクト計画の間のつながりが、よりシームレスになることを期待しています。これまでのサイクルと同様、WSCは提示された計画を検討し、CARサーベイに基づいて優先事項（いくつかの計画については具体的な焦点）を特定し、WSC 2026において各計画の優先度（高・中・低）を示すことになります。

2023–2026年のカンファレンス・サイクルでは、多くのプロジェクト作業に取り組みました。IP #21は改訂され、『Staying Clean in Isolation（孤立の中でクリーンでいる）』という新しいタイトルになりました。H&Iベーシックスの3部構成による改訂も、矯正施設、治療、コミティに関するセクションを含め、カンファレンスまでに完成します。Virtual Service Basicsのアウトラインを作成し、

グループ・ビジネス・ミーティングのサービス・パンフレットも改訂しました。「WSCの将来」プロジェクトのワークグループ・ミーティングは、カンファレンス参加者向けウェブミーティングの枠組みづくりや、ワールドボードへのインプットに役立ちました。4つのIDTに関するワークショップを多数開催し、「Invest in Our Vision」プロジェクトの一環として、フェローシップからの献金を増やす取り組みも継続しました。これらのプロジェクト活動の概要は、プロジェクト計画の後にまとめられています。
さらに、PRおよびH&Iのトラステッド・サーバント向けウェブミーティングや、関心のあるすべてのメンバーが参加できるウェビナー（24時間ユニティ・デイ・ウェブミーティングを含む）も継続して開催しました。過去の公開ウェブミーティングの録画は、ウェビナーおよびウェビナー・アーカイブのページに掲載されています。ユニティ・デイの回復シェアの一部は na.org/wcna に掲載されています。そしてもちろん、ワシントンD.C.でワールド・コンベンションを開催しました。フォーカスグループ・ボランティア・フォームは、これらほぼすべての取り組み、ならびに na.org ウェブサイトの全面的な刷新にも役立ちました。
これらすべての作業と並行して、今サイクルで導入した新しい戦略計画プロセスにも多くの注力が必要でした。デリゲートの関与は、2026–2029年戦略計画の形成に大きな影響を与え、この計画が現在および将来のNAワールドサービスの取り組みの焦点を導いています。この計画については、2026年CARのエッセイでそのプロセスが詳しく説明されています。この協働を土台として、WSC 2026では、次のカンファレンス・サイクルの戦略計画づくりをデリゲートとともに開始し、今サイクルで導入された計画プロセスの評価を行うことを予定しています。
2023年のCATは、すべてのプロジェクト計画がバーチャルで実施される予定であったため、提案予算の中に対応する個別の予算項目が一つも含まれなかった、初めてのケースでした。今サイクルも同様です。それでも、これらの取り組みには、WSCからの方向性と支援、そしてワールドボードやスタッフの時間を含む、NAワールドサービスの人的リソースの投入が必要です。これまでのサイクルと同様、「Reaching Out」などの取り組みについては、必要に応じてバーチャル・ワークグループを設置します。ワークグループやフォーカスグループへの参加機会に関する情報は、通常、NAWS News や NAWS Update のメールを通じて、カンファレンス参加者やその他のメンバーに共有されます。
以下に挙げるすべてのプロジェクトは、サイクル全体を通じて、デリゲートとNAワールドサービスとの協働を必要とします。私たちは、あらゆる段階での皆さんの意見と、カンファレンス間の効果的なコミュニケーションおよび協力関係の継続的な進展を楽しみにしています。

カンファレンスが焦点を定める

2016年、回復文献およびサービス資料に関するプロジェクト計画について、新しいアプローチを採用しました。一般的なプロジェクト計画をカンファレンス・アプローバル・トラックに含め、CARサーベイの結果を参考にしながら、具体的な作業の焦点をカンファレンスが決定するという方法です。このアプローチにより、あらゆる可能性を並べて検討し、どの取り組みが最も緊急性が高いかについて、熟慮した選択を行うことができます。この方法を10年間用いてきた今、私たちは、それが有効に機能してきたと確信しています。詳しくは、na.org/planning に掲載されている「Current Project Process and Status」をご参照ください。
今回もCARサーベイの結果が、このプロセスにおいてWSCを支えることを期待しています。WSC 2023では、2026年CARサーベイを協働で作成する新しいプロセスを試すことが決定されました。初めて、メンバーがオンライン・フォームを通じてCARサーベイのアイデアを提出しました。ワールドボードは寄せられた数百のアイデアを整理・統合し、カンファレンス参加者がそれら（すべてが潜在

的なプロジェクト）に優先順位を付けることで、より簡潔なCARサーベイを作成しました。これは、多くのメンバーが求めていたものです。
このサーベイは2026年CARに含まれており、na.org/surveys にも掲載されています。私たちは、戦略計画とCARサーベイの両方から導き出された計画を提示しています。カンファレンス参加者は、戦略計画の策定や目標・潜在的解決策の特定に多くの時間を費やしました。これらのプロジェクト計画は、カンファレンスがそれらを優先すると選択した場合に、作業がどのように進むかを示しています。これらの計画は全体として、また一部は個別に見ても、1サイクルでは実行しきれない量の作業を含んでいます。
WSC 2026では、各プロジェクト計画について「高・中・低」の優先度を示すストローポールによって、優先順位付けが行われます。これは通常、WSC最終日に行われます。このストローポールはサイクル全体の大まかな方向性を定めますが、サイクルが進むにつれて、スタッフのキャパシティ、フェローシップの反応、その他のリソース需要によって、作業内容や計画が変更される可能性もあります。ワールドボードはプロジェクトを監督する責任を持ち、その進捗や変更について、カンファレンス参加者向けウェブミーティング、メール、NAWS News を通じて報告します。
これらの計画は、カンファレンスが追加の作業を特定したり、優先したりする能力を制限するものではありません。

パブリック・リレーションズ（PR）・プロジェクトプラン

これら2つのプロジェクトはサービス資料に関するものですが、ここに含まれている別のサービス資料プロジェクトとは異なり、特定の重点分野に焦点を当てています。それは、アディクトがNAを見つける手助けをしている人たちとの関係を強化する能力を高めることです。

力強いパブリック・リレーションズ（PR）サービスの取り組みは、NAが最も成長している世界各地において、フェローシップ・ディベロップメントの重要な一部です。WSC 2023の参加者は、PRがNAの将来にとって極めて重要であることを明確にしました。そして戦略計画では、意欲的な作業計画が示されています。

NAWS戦略計画の中でPRが独立した主要成果分野として位置づけられているのと同様に、私たちもPRに特化したプロジェクト計画を設けています。

以下に示す目的と解決策は、相互に関連しつつも別個の2つのプロジェクトの焦点を示しています。ここに記載されている内容すべてを1つのサイクルで達成することは難しいと認識していますが、それでも私たちは協力することで大きな前進を遂げることができます。

他のすべてのプロジェクト計画と同様に、ワールドボードはサイクルを通じてこの作業の進捗を報告します。NAWS戦略計画の策定においてカンファレンス参加者が中心的な役割を果たしたことを踏まえ、この取り組みは承認され、優先事項として位置づけられると期待しています。

PRサービスを通じたフェローシップの認知と関与

以下に示す目的と解決策は、このプロジェクト計画で取り組むことが可能な作業内容を示しています。これらは、2026年CARの付録Bである NAWS戦略計画 から抜粋したものです。
また、サーベイとプロジェクトとの関連性が分かるよう、対応する CARサーベイ項目 も併記しています。

課題：NAの信頼性

目的1：

回復のメッセージを運び、NAのビジョンを達成し、フェローシップ・ディベロップメントを推進するうえで、効果的なパブリック・リレーションズ（PR）の重要性に対するフェローシップの認識を高める。

解決策：

- PR活動への関与の重要性に焦点を当てた、NA内部向けのサービス・キャンペーンを作成する。
- メンバーがPR活動に関与することを支援するため、フェローシップ向けのPRトレーニングやツールをさらに開発する。

これらの目的は、1つのサイクルで達成できる範囲を超えるものであり、NAのPRニーズを満たすための出発点であって、網羅的な目標リストではありません。目的1は、NA内部におけるPRサービスに焦点を当てています。

2026年CARサーベイ関連項目

改訂サービス資料

- Revise PR Handbook.

NAの社会的認知向上

以下に示す目的と解決策は、このプロジェクト計画で取り組むことが可能な作業内容を示しています。これらは、2026年CARの付録Bである NAWS戦略計画 から抜粋したものです。

> **目的2：**4つの対象層に向けたPRツールを作成し、回復プログラムとしてのNAの認知を高める。
>
> - 一般市民（家族を含む）
> - 行政（刑事司法、政策分野を含む）
> - 依存症治療分野
> - 医療専門職
>
> **解決策：**
>
> - 各対象層ごとのPRキャンペーンを作成する。
> - パンフレット『NA：地域社会のリソース（NA: a Resource in Your Community）』を改訂する。
> - 専門職向けプレゼンテーションを更新する（DRT/MATに対するNAの立場や、プログラムのスピリチュアルな性質を明確にする）。
>
> 目的2については、他にも重要となり得る対象層は数多く存在しますが、これら4つは、アディクトがNAを知る最も一般的な経路です。私たちは、ローカル・コミュニティがそれぞれの対象層を特定し、開発されたツールを地域のニーズに合わせて活用することを期待しています。ここで用いられている「ツール」という言葉は、特定された対象層に効果的にリーチし、フェローシップが容易に活用できる方法を柔軟に検討できるようにするためのものです。繰り返し挙げられた手法には、マルチメディア、動画、ソーシャルメディアでの使用に特化した資料などが含まれていました。

回復文献プロジェクトプラン

前回のサイクルでは、プロジェクト作業においてインターネット技術を活用することで、どれほど多くのことが達成できるかを学びました。NAの歴史上初めて、常設ワークグループを設けることなく、既存IPの改訂作業を行うことができました。同時に、フォーカスグループやオンラインでの意見収集を通じて、参加の幅を広げ、より多くのメンバーのアイデアを集めることができました。

このCATに含まれる文献およびサービス資料に関するすべてのプロジェクトについて、私たちはバーチャル形式で作業を行う予定です。具体的には、サーベイ、入力フォーム、ウェビナー、バーチャル・ワークグループやフォーカスグループなどを通じて作業を進めます。

CARサーベイには、カンファレンス参加者によって優先順位づけされた、回復文献、サービス資料、課題ディスカッショントピック（IDT）に関するアイデアが含まれています。カンファレンスは、これらのサーベイ結果を参考にしながら、本プロジェクトで何に焦点を当てるかを決定します。

新しい回復情報パンフレット

カンファレンス参加者は、以下に示されたCARサーベイ項目、または関連するWSCでのディスカッションをもとに、このプロジェクト計画の具体的な焦点を決定します。

2026年CARサーベイには、4つの新しいIPまたはブックレットと2冊の新しい書籍に関するアイデアが含まれています。これらのアイデアのいくつかは、過去にWSCで承認されたリージョン動議に由来しています。回復における女性向けIPは、2020年に可決されたリージョン動議から生まれたプロジェクト計画のアイデアです。薬物代替療法／薬物補助治療（DRT/MAT）とNAとの関係は、2018年に可決されたリージョン動議に端を発し、2020年および2023年には課題ディスカッショントピック（IDT）として支持されました。
2026年CARのイントロダクションでも説明している通り、実行可能なリソースに比べて、プロジェクトのアイデアは常に多く存在します。そのため、メンバーの優先順位を把握し、文献およびサービス資料プロジェクトの焦点をカンファレンスが選択する助けとして、サーベイを活用しています。WSC 2026では、CARサーベイの結果を判断材料として、このプロジェクトにおける新しいIPの可能なテーマの優先順位付けを行うよう求められます。
カンファレンスがどのテーマを選択したとしても、まずは、その優先テーマについてフェローシップがIPに何を期待しているのかを調査するサーベイから開始します。回復文献の候補についてフェローシップへのサーベイを行った後、書籍レベルの文献については、通常、ワールドボードおよびスタッフと協働して作業を進めるワークグループを立ち上げます。IPやブックレットの場合は、関心のあるすべてのメンバーが参加できるよう、フォーカスグループとして情報を公開します。ドラフトが完成すると、フェローシップに告知し、少なくとも90日間のフェローシップ・レビューおよび意見提出期間を設けます。その後、寄せられた意見をもとにドラフトを改訂し、最終的に承認用ドラフトがCARに掲載されます。
IPの焦点はまだ定まっていないため、これらの一般的な枠組み以上に本プロジェクトを具体化することは現時点では現実的ではありません。すべての作業はバーチャルで実施されるため、想定されるリソース上の制約は、ワールドボードおよびスタッフの時間に限られます。
広い意味では、このプロジェクトの可能な焦点の一部は、安全性と帰属意識や薬物補助治療（MAT）といった、NAWS戦略計画に含まれる課題に対応するものとなり得ます。本サイクルのサーベイ結果の概要（「DRT/MATとNAとの関係：メンバーが根を張るのを助ける」に関するIDTサーベイを含む）は、2026年カンファレンスレポートに掲載され、WSCでも結果が共有・議論される予定です。また、WSC 2026でのディスカッションの枠組みづくりに用いられる、2026年CARの質問項目から得られる意見を提供できることも期待しています。
現時点で言えるのは、DRT/MATに関するフェローシップの見解には、明確なコンセンサスが存在しないということです。ただし、第三の伝統の重要性と、すでにPRパンフレット『Narcotics Anonymous and Persons Receiving Medication-Assisted Treatment』に掲載されている考え方については共通の認識があります（同パンフレットは na.org/pr のページ下部のリンクから、7言語で閲覧できます）。このようなコンセンサスの欠如を踏まえると、カンファレンスがこのテーマを優先するのか、それとも一覧にある別のテーマを選択するのかは、現時点では不明です。

2026 CAR Survey　関連項目

新しい回復文献

- **新しいIP／ブックレット：混乱的行動および捕食的行動**
  行動をどのように見極めるか、安全な環境をどのように作るか、などのアイデア。
- **新しいIP／ブックレット：バーチャル回復**
  画面越しでクリーンになること、オンラインミーティングのためのグループブックレット、
  バーチャルにおけるメンバーシップとサービスの基礎、オンラインミーティングでの行動指針などのアイデア。
- **新しい書籍／ワークブック／スタディガイド：12の概念**
  概念ワーク／スタディガイド、サービスコミティのための指針原則などのアイデア。
- **新しいIP／ブックレット：回復における女性**
  男性中心のコミュニティでメッセージを運ぶこと、母性、更年期、経験の分かち合いなど、女性特有の課題に関するアイデア。
- **新しいステップガイド：より経験のあるメンバー向け**
- **新しいIP／ブックレット：新しい仲間を歓迎し、つながり続け、定着を助ける**
  新しい仲間として何をすればよいか、新しい仲間をどのように迎え、関わるかについてのアイデア。
- **新しい回復文献は不要**

既存の回復パンフレットの改訂

カンファレンス参加者は、以下に示すCARサーベイの項目、またはWSCでの関連ディスカッションをもとに優先順位を選択し、このプロジェクト計画の具体的な焦点を決定します。

2026年CARのアデンダムEには、NAワールドサービスで発行されているすべての回復パンフレットおよびサービス資料の一覧が掲載されています。この一覧には、作成日、最終改訂日、現在翻訳されている言語が含まれています。

多くのIPは一度も改訂されていない、あるいは何十年も手が加えられていません。場合によってはそれが意図的であることもありますが、多くのパンフレットについては、既存資料を見直し・改訂することへの私たちのコミットメント不足によるものだと考えられます。

2026年CARサーベイには、改訂候補として複数のIP、ブックレット、書籍が含まれています。次のサイクルでは書籍レベルの改訂プロジェクトに取り組むためのリソースはありませんが、それでも私たちは、多くのIPを更新する時期はとっくに来ていると考えています。IP #21「孤立の中でクリーンであり続ける（Staying Clean in Isolation）」の改訂で用いたプロセスは成功だったと考えており、久しぶりのIP改訂となりました。参加してくださった皆さんに感謝します。

既存IPの新たな改訂が選ばれた場合、まずフェローシップへのサーベイを行い、その入力をもとにドラフトを作成します。その後、少なくとも90日間 na.org に掲載してフェローシップからのレビューと意見募集を行い、寄せられた意見を反映して改訂し、最終的に次回CARに承認用ドラフトを掲載します。

2026年CARサーベイに含まれるいくつかの項目は、次のサイクルで特定の文書を改訂するというよりも、プロセスを開始することを目的としています。これらには、

- 伝統11に「ソーシャルメディア」を含めること
- 文書全体における「神（God）」への言及を「ハイヤー・パワー」に置き換えること
- ジェンダー特定的な言語から、ジェンダー・ニュートラルで包括的な言語への変更や追加文言の検討

などが含まれます。これらは複数の文書に関わり、ステップ、伝統、コンセプトの改訂の可能性もあるため、より複雑で、対話とコンセンサス形成により多くの時間を要します。

ジェンダー・ニュートラルな言語の課題については、「セーフティとビロンギング／ジェンダー・ニュートラルな言語」プロジェクト計画で扱われています。

私たちはWSC 2026に対し、このサイクルで少なくとも1つのIP改訂を選択することを求めています。

2026年CARサーベイに関連する項目
回復パンフレットの改訂

- 小冊子『ビハインド・ザ・ウォールズ（塀の向こうで）』（1990年）を更新する。
  アイデアとしては、利用可能なサービスを追加すること、外の世界でクリーンを保つことに関する内容を含めることなどが挙げられている。
- 伝統11を改訂し、「ソーシャルメディア」を含める。
- 小冊子『イン・タイムズ・オブ・イルネス（病気のとき）』（2010年）を更新する。
  アイデアとしては、医療用マリファナ、幻覚剤使用の治療的使用に関する情報の追加、処方薬に関する明確化などが挙げられている。
- ステップ・ワーキング・ガイドを改訂する。
  アイデアとしては、誘導的な質問を減らすこと、ステップ1の質問数を減らすこと、ステップ4の質問数を増やすこと、ジャーナリングをより奨励すること、プロセスを簡素化すること、質問に番号を付けることなどが挙げられている。
- IP #26『追加的なニーズのある人々のためのアクセシビリティ』（1998年）を更新する。
  アイデアとしては、現在のテクノロジーを認識すること、目に見えない障がいについての内容を追加することなどが挙げられている。
- 文書全体において、「神（God）」への言及を「ハイヤー・パワー（より大きな力）」に置き換える。
- IP #24『マネー・マターズ（お金の問題）』（2010年）を更新する。
  アイデアとしては、ゾーン・フォーラムに関する情報や、デジタルによる献金（寄付）についての情報を追加することなどが挙げられている。
- 回復パンフレットの改訂は行わない

課題ディスカッション・トピック（IDTs）

カンファレンス参加者は、以下のCARサーベイ項目、または関連するWSC（ワールド・サービス・カンファレンス）でのディスカッションから優先事項を選択することによって、このプロジェクト計画の正確な焦点を決定する。

私たちのIDTに関する経験は、時間とともに変化し、成長してきました。IDTは、フェローシップからベストプラクティスを集める助けとなったため、現在の多くのサービス・パンフレット（SP）の基盤を築いてきました。直近のサイクルでは、「NAとの関係におけるDRT／MAT」および「ジェンダー中立かつインクルーシブな言語」に関するディスカッションが、2026年CARにおけるエッセイや質問を形づくるための情報収集に役立ちました。

また今サイクルでは、「サービスの再構築と活性化（Reimagining and Revitalizing Service）」および「破壊的および略奪的行動（Disruptive and Predatory Behavior）」について、フェローシップ全体でのディスカッションも行われました。これらのトピックに関する次のステップは、CARサーベイおよび戦略計画に示されています。ご意見を寄せ、これらの課題に対するフェローシップの考えや見解をより深く理解する助けとなってくださったすべての方々に感謝します。繰り返しになりますが、すべてのIDTに関するインプットの要約は、2026年カンファレンス・レポートに掲載されます。私たちは、2026〜2029年サイクルのIDTを選択するにあたり、どのようなトピックについてディスカッションを行い、フェローシップ全体の経験を集める必要があると考えるかを、参加者の皆さんに検討していただくことを奨励します。

私たちは、WSC 2026において、2026〜2029年の戦略計画の枠組みづくりを開始するとともに、2023年から2026年にかけて策定されたプロセスの評価を行うための時間を設ける予定です。このディスカッションは、IDTのリストが優先順位付けされる前に行われ、WSCが次のサイクルに引き

継ぎたいと考えるトピックに影響を与える可能性があります。参加者はまた、サイクルのIDTを選択するよう求められる前に、CARサーベイの結果を受け取ることになります。
今サイクルにおいて、戦略計画およびCARサーベイに関してカンファレンス参加者が行ってきた作業により、以下のCARサーベイのリスト、またはNAWS戦略計画の中に含まれる、フェローシップ全体でのディスカッションに適しており、デリゲートの支持があると思われる複数のアイデアを、すでに特定することができています。これらには、ジェンダー中立な言語、『ローカル・サービス・ガイド』の改訂、『グループ・ブックレット』の改訂、ならびに略奪的行動を含めるための「破壊的および暴力的行動」に関するSPの改訂などが含まれますが、これらに限定されるものではありません。WSC 2026では、現在のSPを改訂するのか、新たなIPを作成するのか、あるいは破壊的および略奪的行動というトピックについてディスカッションを継続するのかを決定するためのディスカッションが行われます。これらの改訂を効果的なものとするためには、エリア、リージョン、ゾーンにおいてディスカッションを行い、フェローシップの現在の経験を収集し、これらのプロジェクトに反映させていく必要があります。
私たちは、異なるニーズや対象に合致する、さまざまなIDTが存在することは理にかなっていると考えています。カンファレンスでは、しばしばカンファレンス自身に関連するトピックが優先されますが、NA全体にとってより幅広い関心を持たれ得る、グループに焦点を当てたトピックについても考慮することを、参加者の皆さんに強く勧めます。選択されるトピックにかかわらず、ワールドボードは、フェローシップでのディスカッションのためにIDTの焦点を形づくる作業に、カンファレンス参加者の協力を求めることになります。また、これまでと同様に、ワークショップの取り組みを支援するため、セッション・プロフィールおよびPowerPointを公開します。

2026年CARサーベイに関連する課題ディスカッション・トピック（IDTs）

- **サービスへのメンバーの参加を促すこと**
- **意思決定／デリゲーション（権限委譲）**
  アイデアとしては、コンセンサスに基づく意思決定、ならびにNAのサービスにおける責任と権限などが挙げられている
- **破壊的および略奪的行動**
  アイデアとしては、セーフガーディング・ポリシー、サービス・ミーティングにおける攻撃的行動、人種差別、性的略奪行為、安全でインクルーシブな環境の構築、法的判断とグループの判断の境界、携帯電話の使用、ミーティングにおける子どもの扱いなどが挙げられている
- **一体性**
  アイデアとしては、外部の政治的状況がある中でもNAのユニティを維持することなどが挙げられている
- **アディクトが私たちを見つけられるよう支援すること**
  アイデアとしては、テクノロジーを活用してアディクトをミーティングや互いにつなげることなどが挙げられている
- **資金の使途、資金の流れ、そして資金調達**
  アイデアとしては、50/50ラッフル、資金の流れにおける滞り、電子的資金におけるアノニミティなどが挙げられている。
- **ソーシャルメディア**
  アイデアとしては、グループでの利用や、PRツールとしてのソーシャルメディアの活用などが挙げられている

オールドタイマーをつなぎとめること

サービス・ツールの新規作成および改訂

カンファレンス参加者は、以下に示すCARサーベイ項目、または関連するWSCでのディスカッションから優先事項を選択することによって、このプロジェクト計画の正確な焦点を決定する。

目的および解決策は、CP（カンファレンス参加者）が判断を行う際の指針となるよう、ここに含められている。これらは、今サイクルにおいて私たちが目指す目標と、NAを代表してワールド・サービスが取り組むことをカンファレンス参加者が特定した作業内容を示している。これらは、2026年CARのアデンダムBであるNAWS戦略計画から抜粋されたものである。

サービス・ツール・プロジェクトについては、上記で説明した2つの回復文献プロジェクトおよびIDTと同じアプローチを取っています。ここでは一般的なプロジェクト計画を提示しており、具体的な焦点については、CARサーベイの結果を判断のための資料として用いながら、WSC 2026において参加者が決定することになります。

2026年CARサーベイには、新規および改訂されたサービス資料に関する18のアイデアがあり、私たちはメンバーに対して、各カテゴリーにつき最大2つまで選択するよう依頼しました。これらのトピックの大半は、『ローカル・サービス・ガイド（A Guide to Local Service：GLS）』の改訂によって網羅されると考えています。このガイドは2002年に承認され、2014年に軽微な改訂が行われました。その後の23年間でNAは大きく変化しており、私たちは、グループ、エリア、リージョン、ゾーンからの現在のベストプラクティスと実際の経験を含んだサービス資料が今こそ必要だと考えています。戦略計画の目的4において、私たちは次のように表現しています。

NAにおけるサービスのための現代的なガイドを作成し、『ローカル・サービス・ガイド』に代わるものとする。ベーシックス・シリーズと同様の形式によるモジュール型アプローチを検討する。サービス・システムの中にバーチャル・グループをどのように組み込むかについての指針や、ゾーンに関する情報を含める。リソースが作成される際には、将来的にコンテンツの代替フォーマット（例：動画）を作成する可能性についても検討する。

私たちは、この改訂が、目的3、4、5、6で扱われている内容の多くに対応するものになると考えています。例として、有効なサービス・システムは、有能なトラステッド・サーバントなしには成り立ちません。『ローカル・サービス・ガイド』の改訂は、システム全体を通じて、トラステッド・サーバントを惹きつけ、育成し、メンタリングしていくという課題に取り組むことになるはずです。

これは、サービスの各レベル（グループ、エリア、リージョン、ゾーン）ごとに、4つの個別ではあるものの相互に関連したプロジェクトの焦点を持つ、大規模な取り組みとなります。NAのサービスに関わる私たち全員のコミットメントが必要となるでしょう。ありがたいことに、多くのゾーン・フォーラムやリージョンから、プロジェクト作業により積極的に関わりたいという意欲と準備があるとの声を聞いています。このプロジェクトは、エリア、リージョン、ゾーンが地域でのワークショップを開催し、この新しい資料の開発のためにインプットやアイデアを提供してくれることでのみ、成功することができます。

もしWSC 2026でGLSが優先事項として選ばれた場合、私たちは『グループ・ブックレット』の改訂も求めることになります。GLSに含まれている『グループ・ブックレット』は、NAグループの原則を確立する基盤となるものです。これは1990年に作成され、1997年に改訂されました。『グループ・ブックレット』が改訂される場合、それはカンファレンス承認ではなくフェローシップ承認であるため、回復文献と同じプロセスに従うことになります。

私たちは、このプロセスを、NAのグループおよびエリアの経験を収集するためのディスカッションから開始することを推奨します。リージョンやゾーンは、そうした対話の調整を支援し、その経験を集める上で重要な役割を果たすことができるでしょう。基盤が構築された後、時間とリソースが許す範囲で、リージョンおよびゾーンの経験へと進んでいくことができます。

> **課題：バーチャルNAの拡大による影響**
> **目的3：**
> バーチャル・グループおよびサービス・ボディが、サービス・システムに十分に参加でき、NAフェローシップの良心の一部としてその声が確実に反映されるようにする能力を向上させる。
> **解決策：**
> バーチャル・グループおよびエリアがNAサービスに参加するためのベストプラクティスを収集する
> （例：グローバル・センターのサービス組織、既存の地理ベースのシステム）。
>
> **課題：サービス・システムにおける一体性の欠如**
> **目的4：**
> サービス・システム内における調整および協働の概念をさらに推進し、『NAサービスのビジョン』における補完的な役割と貢献に対する理解と評価を深める。
> **解決策：**
> NAにおけるサービスのための現代的なガイドを作成し、『ローカル・サービス・ガイド』に代わるものとする。
> ベーシックス・シリーズと同様の形式によるモジュール型アプローチを検討する。
> サービス・システムにバーチャル・グループをどのように組み込むかについての指針や、ゾーンに関する情報を含める。
> リソースが作成される際には、将来的にコンテンツの代替フォーマット（例：動画）を作成する可能性についても検討する。
>
> **課題：トラステッド・サーバントの育成と組織化**
> **目的5：**
> メンタリング、トレーニング、ツールを通じて、サービスの継続性を高め、あらゆる年齢層および回復の段階にあるメンバーがサービスに関わるよう鼓舞する。
> **解決策：**
> 既存のトラステッド・サーバントが、メンバーをサービスへと鼓舞する環境をつくり、継続的にトラステッド・サーバントを育成するためのパイプラインを確立できるよう支援するメッセージングおよびツールを作成する。
> 年齢および回復年数の若いメンバーがサービスに関わることを促すための、メンタリングに関する指針およびリソースを作成する。
>
> **課題：資金の流れの停滞**
> **目的6：**
> グループおよびサービス・ボディが、メンバーにとって便利な献金方法を提供できるよ

うにし、サービス・システムのすべての構成要素を通じた資金の分配を促進し、奨励するためのツールを作成する。

解決策：

グループが電子的な献金を扱う際の指針となるリソースを作成する。
なぜ私たちが献金するのか、それがなぜ重要なのか、そして資金がどこへ行くのかについてのメッセージングおよびリソースを作成する
（例：ユニティ・デー、ウェビナー、ソーシャルメディア、リーディング・カードなど）。

課題：安全性と帰属意識

目的7：

多様なフェローシップにおけるインクルーシビティに対する意識のレベルを高め、対面およびバーチャルのミーティングにおいて、すべてのメンバーおよび将来のメンバーが安全で、歓迎され、包摂されていると感じられるようグループを支援するツールを開発する。

解決策：

NAにおける安全性および略奪的行動への対処に関するサービス・パンフレットを更新する、または新たなパンフレットを作成する。
『グループ・ブックレット』を更新し、安全性とインクルージョンに関する指針を追加する。
バーチャル・ミーティングにおける破壊的または不適切な行動に対処するためのツールを
作成する。

2026年CARサーベイに関連する新規サービス資料

- **新しいサービス・ベーシックス／サービス・パンフレット：サービスにおけるメンタリング。**
  アイデアとしては、実践的なトレーニングや、サービス・ボディにおいてメンタリングをどのように実施するかなどが挙げられている。
- **新しいサービス・ベーシックス／サービス・パンフレット：フェローシップ・ディベロップメント。**
  アイデアとしては、アウトリーチのベストプラクティス、FDとは何か、コミティのためのガイドラインなどが挙げられている。
- **新しいサービス・ベーシックス／サービス・パンフレット：バーチャル・サービス。**
  アイデアとしては、バーチャル・プラットフォームに関するガイドライン、パブリック・リレーションズ、バーチャル・エリアおよびリージョン、バーチャル・グループをサービス構造につなげること、バーチャルまたはハイブリッドのサービス・ミーティングなどが挙げられている。
- **新しいサービス・ベーシックス／サービス・パンフレット：ソーシャルメディア。**
  アイデアとしては、パブリック・リレーションズ活動にAIを活用すること、ソーシャルメディアにおける伝統の適用などが挙げられている。
- **新しいサービス・ベーシックス／サービス・パンフレット：GSRオリエンテーション／ワークショップ・ガイド。**
- **新しいサービス・ベーシックス／サービス・パンフレット：グループ・インベントリー／年次レビューを行うためのグループ・パンフレット。**
- **新しいサービス・ベーシックス／サービス・パンフレット：エリア・サービスの基礎。**
- **新しいサービス・ベーシックス／サービス・パンフレット：グループおよびサービス・ボディのための電子資金管理ツール。**
- **新しいサービス・ベーシックス／サービス・パンフレット：トラステッド・サーバント育成。**
- **新しいサービス・ベーシックス／サービス・パンフレット：政府／刑事司法向けPRツール。**
- **新しいサービス・ベーシックス／サービス・パンフレット：あらゆるレベルにおけるサービスの協働。**
- **新しいサービス・ベーシックス／サービス・パンフレット：サービスにおけるローテーションと継続性。**
- **新規サービス資料は作成しない。**

2026年CARサーベイに関連する改訂されたサービス資料

- **『ローカル・サービス・ガイド（A Guide to Local Service）』を改訂する。**
  アイデアとしては、『ローカル・サービス・ガイド』に代わる現代的な一連のサービス・ツールを作成すること、時代遅れの情報を削除すること、農村部／遠隔地のエリアおよびリージョンに関する情報を追加すること、ゾーンに関する情報を追加すること、より多くのベストプラクティスを加えることなどが挙げられている。
- **『グループ・ブックレット』を改訂する。**
  アイデアとしては、略奪的行動への対処に関する情報の追加、メンバーが歓迎されていると感じられるようにする方法、バーチャルNA、伝統およびコンセプトの学習ミーティングの重要性、共通ニーズミーティング、トラステッド・サーバントの役割に関する情報の拡充などが挙げられている。
- **SP『破壊的および暴力的行動』を改訂する。**
  アイデアとしては、略奪的行動に関するセクションの追加、オンライン・ミーティングへの対応、IDTからの文章を含めることなどが挙げられている。
- **SP『ソーシャルメディア』を改訂する。**
  アイデアとしては、オンライン・ミーティングに関する情報の追加、ソーシャル・ネットワーキングに関する指針の更新、PRおよびH&Iに関する情報の追加などが挙げられている。
- **H&Iハンドブックを改訂する。**
- **『プランニング・ベーシックス』を改訂する。**
- **サービス資料の改訂は行わない。**

安全性と帰属意識／ジェンダー中立な言語

以下に示す目的および解決策は、このプロジェクト計画において取り組むことが可能な作業の概要を示している。これらは、2026年CARのアデンダムBであるNAWS戦略計画から抜粋されたものである。サーベイとプロジェクトとの関連性が分かるよう、関連するCARサーベイ項目が記載されている。

この目的で扱われている内容の多くは、新規または改訂されたツールに関するものですが、それにとどまるものではありません。2026年CARにおける質問への回答や、WSC 2026でのディスカッションは、NA文献におけるジェンダー特有の言語から、ジェンダー中立かつインクルーシブな言語への変更、または文言の追加を検討する際の、次のステップの枠組みづくりに役立つことになります。

課題：安全性と帰属意識

目的7：

多様なフェローシップにおけるインクルーシビリティに関する意識のレベルを高め、対面およびバーチャルのミーティングにおいて、すべてのメンバーおよび将来のメンバーが、安全で、歓迎され、包摂されていると感じられるようにするためのツールを、グループを支援する形で開発する。

解決策：

NA文献におけるジェンダー特有の言語から、ジェンダー中立かつインクルーシブな言語への変更、または文言の追加について調査する。

この目的の範囲は広く、略奪的行動、ジェンダー中立な言語などを含んでいます。サービス資料や回復文献に関するほとんどのプロジェクトは、プロジェクトに含める、あるいは検討する内容についてメンバーが何を望んでいるのかを把握するため、何らかの形でフェローシップ全体を対象としたサーベイから始まります。そのようにすることで、フェローシップ全体が、戦略計画の解決策に挙げられているアイデアの焦点を絞ることに関与することができます。

上記の解決策で言及されている2つのトピック――破壊的および略奪的行動への対処、ならびにNA文献におけるジェンダー中立かつインクルーシブな言語――はいずれも、今サイクルの課題ディスカッション・トピックとして選ばれました。破壊的および略奪的行動に関するインプットは、新規および／または改訂された資料において私たちが取り組む必要のある多くの点を示しています。一方、ジェンダー中立かつインクルーシブな言語に関するインプットは、次のサイクルに向けて、このトピックについてより焦点を絞ったディスカッションを行うことを私たちに勧めるものとなっています。この戦略計画で提案されている解決策は、優先された場合に、次のサイクルにおいて取り得る次のステップの一部を示しているにすぎません。

2026年CARサーベイに関連する改訂された回復文献

- **ジェンダー中立な言語。**
  NA文献におけるジェンダー特有の言語から、ジェンダー中立かつインクルーシブな言語への変更、または文言の追加について調査する。

DRT/MAT—メンバーが定着することを助ける

以下に示す目的および解決策は、このプロジェクト計画において取り組むことが可能な作業の概要を示している。これらは、2026年CARのアデンダムBであるNAWS戦略計画から抜粋されたものである。サーベイとプロジェクトとの関連性が分かるよう、関連するCARサーベイ項目が記載されている。

この課題も、上記の課題と非常によく似ています。CARにおける質問への回答や、WSC 2026でのディスカッションは、このトピックに関する次のステップを決定する助けとなります。

課題：薬物療法補助（Medication-Assisted Treatment）
目的8：
私たちの第三の伝統の精神に基づき、NAのメンバーであるとはどういうことか、また、アディクトがどのようにNAと出会ったかにかかわらず、メンバーシップを選択できる場をどのように創り出すかについて、フェローシップ全体で共通の理解を達成する。
解決策：
メンバーおよび将来のメンバーが歓迎されていると感じられるようにするための方法について、グループおよびワークショップ向けのリソースを開発する。
薬物療法補助の利用が増加し、広く普及していることにより、「使用をやめたいという願い」が自分にとって何を意味するのかを理解しないまま、NAにたどり着くアディクトがますます増えています。私たちは、薬物代替療法や薬物療法補助、そしてNAとの関係について、すでに何年にもわたってディスカッションを続けてきましたが、このトピックはNAの中でも最も意見が分かれるものの一つとなり得ます。関連する多くの課題についてメンバー間で意見の相違はあるものの、フェローシップとしては、第三の伝統の原則と、アディクトを歓迎し、彼らが望むならNAのメンバーシップを選択できる余地を与

える必要性について、一定のコンセンサスがあるように見受けられます。私たちが受け取ったインプットには、明確な立場を取り、それを公表することを求める多数の要望が含まれており、その見解はほぼ同数の相反する意見に分かれています。ワールドボードは、このディスカッションを主導する用意がありますが、私たちの実践は、フェローシップの経験を反映したものを公表することです。この目的は、パブリック・リレーションズを目的としたものではなく、フェローシップへの支援と、NA内部の文化に関わるものです。

2026年CARサーベイに関連する新規回復文献

- **新しいIP／ブックレット：DRT／MAT。**
  アイデアとしては、明確な立場やポジションを探ること、クリーンまたはアブスティネンスの定義、誰がサービスを行うことができるのかの明確化、これをアウトサイド・イシューとして位置づけること、命を救いメンバーがNAに根づくことを助けること、個人的経験を含めること、PRとMAT、その他の医療的治療――治療目的での医療用マリファナ／幻覚剤使用――などが挙げられている。

世代的および文化的多様性

以下に示す目的および解決策は、このプロジェクト計画において取り組むことが可能な作業の概要を示している。これらは、2026年CARのアデンダムBであるNAWS戦略計画から抜粋されたものである。

この目的は、メンバーにより効果的にリーチするための一歩を踏み出すことに関するものである。すべての対象やすべてのニーズを網羅するものではなく、あくまで出発点に過ぎない。ワールド・サービスは、テクノロジーおよびコミュニケーションの適応と改善に常に取り組んでおり、この種の活動――コミュニケーション方法やテクノロジーを適応させること――は、通常はプロジェクト計画を伴わない。たとえば、ソーシャルメディア・アカウントの立ち上げは、正式なプロジェクト計画の一部ではなかった。しかし、戦略計画の目的とプロジェクト計画とを一貫して並行させるという観点から、私たちはこのプロジェクトをここに含めている。

課題：世代的および文化的多様性
目的9：
多様なメンバーシップの参加に関する嗜好に対応するため、コミュニケーション方法およびテクノロジーの適応を継続する。
解決策：
新しいテクノロジーを活用し、若いメンバーを意図的に惹きつけ、情報をより理解しやすく、共有しやすくすることを目的とした、戦略的なコミュニケーション・アプローチを開発する。
アイデアとしては、以下が挙げられている。
・若いメンバーから直接インプットを集める。
・WhatsApp／Telegramのようなメッセージング・アプリを、ワールド・サービスの公式なコミュニケーション手段として導入する。
・レポートの中で、情報の一部を伝えるためにインフォグラフィックや動画を活用する。

3年カンファレンス・サイクル

以下に示す目的および解決策は、このプロジェクト計画において取り組むことが可能な作業の概要を示している。これらは、2026年CARのアデンダムBであるNAWS戦略計画から抜粋されたものである。サーベイとプロジェクトとの関連性が分かるよう、関連するCARサーベイ項目が記載されている。

次期サイクルにおいて私たちが達成したいと考えていることの大半は、2026〜2029年戦略計画の目的10に詳細に記されている。このプロジェクトが承認された場合、以下に列挙されたすべての解決策に取り組むことになる。これは、NAワールド・サービスおよびワールドボードだけでは実行できないプロジェクトの、もう一つの例である。私たちが共に前進していくためには、カンファレンス参加者からの時間とエネルギーの提供が必要となる。

> **課題：3年カンファレンス・サイクル**
> **目的10：**
> 主要なミーティング、方針、計画プロセス、期限、ガイドラインを含め、3年カンファレンス・サイクルをさらに精緻化し明確に記述することで、参加者が、3年サイクルを継続的に採用するかどうかについて、十分な情報に基づいた判断を行えるようにする。
> **解決策：**
> 2サイクルにわたる試行の経験を活用し、3年カンファレンス・サイクルに関する提案された説明およびガイドラインの草案を作成し、カンファレンスでの決定のためにGWSNA（NAワールド・サービス・ガイド）の草案に含める。暫定WSCミーティングをより明確に定義し、対面カンファレンス期間中およびその合間の時間をどのように最適に活用するかに取り組む。
> デリゲート任期を3年カンファレンス・サイクルに適応させるための、リージョンおよびゾーンのベストプラクティスを収集する。
> 継続的な実施に向けて、協働的な計画プロセスを評価し、洗練させる。
> 目的10は、WSC 2029において検討されるための、3年カンファレンス・サイクルに関する包括的な全体像を提示するという、ワールドボードのコミットメントを示すものである。3年カンファレンス・サイクルは、私たちが共に作業を計画し、財政的責任を果たし、意思決定を行い、そしておそらくそれ以上に重要なこととして、カンファレンスの合間にフェローシップに資するより多くの活動を行うための、効果的な方法であるように思われる。現在の計画プロセスは、私たちの歴史の中で最も協働的なプロセスであり、テクノロジーの活用と3年カンファレンス・サイクルによって、うまく機能してきた。このプロセスには、ゾーン・フォーラムだけでなく、全期間を通じてカンファレンス参加者が直接関与してきた。私たちは、この経験を今後もさらに発展させていく計画である。WSC 2026では、今サイクルの取り組みを評価し、将来に向けたアイデアを提示することになる。当初、私たちは計画プロセスそのものにのみ焦点を当てた別個の目的を設定していたが、それが3年サイクルと非常に密接に関連しているため、2つの目的を統合した。
> 2029年には、カンファレンス参加者が3年サイクルを継続するかどうかを選択しなければならず、この目的は、その判断を十分な情報に基づいて行えるよう支援することを意図している。フェローシップが1998年にワールド・サービスの再構築を決定した際には、採用を求められている変更内容を詳細に示した『ワールド・サービス・ガイド』の

> 草案が、その判断を支えた。私たちは、3年サイクルに関する決定においても、同様のアプローチが取られると見込んでいる。今後のカンファレンス・サイクルの期間について、WSCが十分に情報を得た上で判断できるようにするため、2029年までの間に行うべき作業は数多く残されている。

◆

2023–2026年サイクルで採択されたプロジェクトの進捗状況

新しい回復情報パンフレット

WSC 2023後に発行された NAWS News において、私たちは次のように報告した。
新しいIPを起草する代わりに、WSCは**『ステップ・ワーキング・ガイド』**の改訂を検討し始めることを決定した。SWGの編集または簡略化によって、CARサーベイで優先度が高かった以下の3つのアイデアを満たす可能性がある。

- ステップに取り組むことに慣れてきたメンバーを対象としたステップ・ワーキング・ガイド
- 主にステップ1～3に焦点を当て、新しいメンバーや治療施設・ドラッグコートにいる人を主な対象としたステップ・ワーキング・ブックレット
- ステップ・ワーキング・ガイドの改訂および簡略化

ワールドボードは、2024年7月から2025年3月までフェローシップへのサーベイを実施した。このサーベイは13言語で公開され、7,500人以上のメンバーから回答が寄せられた。ステップに取り組むための新しい、あるいは改訂された資料を作成すべきかどうかについて、明確なコンセンサスは見られなかった。参加者は3つの選択肢のうち1つを選ぶよう求められたが、いずれの選択肢も過半数には達しなかった。

- 文章の改訂は行わず、既存のステップ関連資料を維持する：**26%**
- 『ステップ・ワーキング・ガイド』を改訂する：**30%**
- ステップに取り組むための新しい追加資料を作成する：**44%**

WSC直前に発行されるカンファレンス・レポートには、サーベイ回答の完全な要約が含まれる予定である。（なお、このサーベイは**『The NA Survival Kit』**が発行される前に実施されたものであり、このリソースが利用可能になったことで状況は変化している点に留意されたい。）

既存の回復インフォメーショナル・パンフレットの改訂

WSCは、このプロジェクトの焦点として **IP #21** を選択した。改訂版IPの承認用草案は、2026年CARのアデンダムAとして収録されており、CARエッセイにおいて本プロジェクトの詳細が説明されている。

課題討議トピック（Issue Discussion Topics：IDTs）

WSC 2023では、以下の4つの課題討議トピックが選定された。

- 妨害的・捕食的行動への対処
- NA文献におけるジェンダー中立かつインクルーシブな言語
- サービスコミティの再構築と再活性化
  （NAメッセージの到達範囲を広げ、コミュニケーションを改善し、メンタリングとトレーニングを提供し、過去数年間の経験から学びながら、サービスをより魅力的で参加しやすいものにするため）
- NAに関連するDRT/MAT

カンファレンス参加者は、ワークショップ資料の作成に協力し、それらは **na.org/idt** に掲載されている。ワールドボードは、これらのトピックに関する多数のワークショップを進行し、ワールド・サービスは「妨害的・捕食的行動への対処」および「サービスコミティの再構築と再活性化」に関する公開ウェブミーティングを開催した。フェローシップからの多くの要望に応え、ワールド・サービスはNAグループ向けのジェンダー中立リーディングに関するウェブページを公開した（**na.org/gender**）。4つすべてのトピックについて、サイクルの大半の期間にわたりサーベイが実施され、その回答要約はカンファレンス・レポートに含まれる予定である。
これら4つのトピックは、本書で説明されている各プロジェクトすべてに関連している。

- 妨害的・捕食的行動への対処
  → 課題討議トピック・プロジェクト計画を参照
- NA文献におけるジェンダー中立かつインクルーシブな言語
  → セーフティ＆ビロンギング・プロジェクト計画を参照
- サービスコミティの再構築と再活性化
  → 新規および改訂サービスツール・プロジェクト計画を参照
- NAに関連するDRT/MAT
  → 「DRT/MAT—メンバーが根づくことを助ける」プロジェクト計画を参照

新規および改訂サービスツール

WSC 2023では、「新規および改訂サービスツール・プロジェクト計画」において4項目が優先事項として選定された。人員不足によりPRビデオの作業は進められなかったものの、残りの3項目については順調に進展している。
Virtual Service Basics のアウトラインをレビュー用に公開し、現在はそのフィードバックおよびフォーカスグループからのアイデアを活用して、WSC前にレビュー用草案を公開する文書の作成を進めている。
サービス・パンフレット『**Group Business Meetings**』のレビュー草案はすでに公開されており、WSC 2026までに最終版を完成させる予定である。
また、『**H&I Basics**』の3部構成による改訂作業も進行中である。最初の2部（矯正施設および治療施設）はすでにレビュー用として公開されており、本CATが発行される前にコミティ編の草案を公開する見込みである。

WSCの将来

「WSCの将来」は、各ゾーンおよびイランから1名ずつ選出されたメンバーで構成されたワークグループである。このグループはオンラインで7回会合を開き、3年サイクルに関連するトピック（計画、WSCでの時間の使い方、暫定WSCミーティング、CAR動議、協働など）について議論した。グループは、カンファレンス参加者向けウェブミーティングの枠組み作りに貢献し、ワールドボードに対して意見やアイデアを提供した。

ビジョンへの投資（Invest in Our Vision）

ワールドボードおよびビジネス・プラン・グループが、このプロジェクトのワークグループとして機能した。本プロジェクトは、拠出の必要性に対する認識を高め、ワールド・サービスへの拠出に対するコミットメントを育むことを目的としている。

このサイクルにおいて、私たちは以下を含むさまざまな取り組みを行った。
NAワールド・サービスで行われている活動をメンバーに理解してもらうための **NAWSブローシャー** を作成し、拠出に関する定期的なメッセージを発信する24時間オンラインの **Unity Day** を開催した。WCNAでは、サービス資金の調達をテーマとしたワークショップを実施し、**Electronic Funds Best Practices** に関する小冊子を作成した。これらのワークショップおよび資料は、**na.org/idt/service-workshops/** で閲覧できる。
WCNA、Unity Day、そしてサイクル全体を通じたコミュニケーションにおける多くの対話と集中的な努力にもかかわらず、期待していたほどの大きな進展は見られていない。しかし、拠出額はパンデミック以前の水準を大きく上回っている。2025会計年度には200万ドル以上の拠出があり、これは2020会計年度の2倍以上、かつパンデミック前の年間平均を大きく超える金額である。それでもなお、ワールド・サービスがメンバーの拠出のみで自立するには、まだ長い道のりが残されている。NAWS戦略計画の目的12に導かれながら、ワールドボードは今後も認識向上の取り組みを継続していく。

2026–2029年に提案されている予算を理解すること

はじめに

この「はじめに」では、今後3会計年度に向けて私たちが提案している予算に見られるいくつかの重要な傾向の概要を示すとともに、NAワールドサービス（NAWS）の基本的な予算用語および慣行について説明します。NAWSの予算案を見るのが初めての方にとっては、この「はじめに」を一度以上読み返すことが役立つかもしれません。本書は、予算案を理解するためのロードマップと考えることができます。この予算説明の内容は、サイクルごとにほとんど変わりません。

私たちは、現在のカンファレンス方針（2029年まで）を反映するため、3年予算を提示しています。今後のカンファレンス・サイクルの長さについては、WSC 2029において決定されます。

提案予算を説明するにあたり、非営利セクターにおけるいくつかの会計上の基本原則を理解しておくことが役立つかもしれません。ご存じのとおり、予算とは、特定の期間における収入および支出を予測するものです。今回ご覧いただくのは、今後3会計年度にわたって私たちが受け取り、支出すると見込んでいる資金です。すなわち、2026年7月1日から2027年6月30日までの会計年度（FY）2027、2027年7月1日から2028年6月30日までのFY 2028、そして2028年7月1日から2029年6月30日までのFY 2029です。各会計年度は、その年度が終了する年の名称で呼ばれます。

この予算は、チャッツワース、ヨーロッパ、イラン、カナダ、インドを含む、すべてのワールドサービスの拠点および文献配布センターの活動を対象としています。

私たちの予算見通しは、主としてこれまでの経験に基づいています。ご覧のとおり、直近2年間の実際の収入および支出と、次のサイクルに向けて私たちが提案している内容との間には、直接的な関係があります。これらの数値は、比較しやすいよう並べて表示されています。

予算は重要な管理ツールであると同時に、行動計画であり、私たちの優先事項の反映であり、また既知・未知を問わず不利な状況に対処するためのツールでもあります。NAワールドサービスの予算は、文献販売から得られる収益を用いて、世界中のNAサービスを支えるという、フェローシップの集合的な決定を反映しています。これまでの年には、制作面での節減により、文献を手頃な価格で提供し続けることが可能となり、同時に余剰分を、翻訳、広報、既存のNAグループやメンバー、サービスコミティの支援、そしてフェローシップ全体の発展など、NAWSが提供・支援している中核的サービスの重要な業務に再投資することができました。こうした優先事項は、これから示される予算の中にも表れています。

私たちは、文献を手に取りやすい価格に保つという姿勢を引き続き大切にしていますが、制作コストおよびサービス提供コストの大幅な増加という現実が私たちに課題を突きつけており、その結果、2026年1月1日に価格改定が実施されました。フェローシップからの献金は、この点で非常に大きな助けとなっています。今後のサイクルにおいても、制作コストの上昇が続くと見込んでいます。

2026–2029年の予算案（ドラフト）では、最初の2列にFY 2024およびFY 2025の実際の収入および支出が示されています。2024年の収支については年次報告書で説明されています。本書執筆時点では、2025年についてはまだ承認済みの監査が完了していないため、2025年の数値は「未監査」と表示されています。最終的な監査数値に大きな変更が生じるとは考えておらず、WSC 2026までに承認済み監査および2025年年次報告書を皆さまに提供できる見込みです。

実績として示されている直近2会計年度、すなわち2024年および2025年は、COVID後の現実を反映しています。FY 2024では、現金取引のみで675,362ドルの超過収益が見られます。FY 2025で

は、現金取引のみで689,950ドルの超過収益が見られます。今後発生することが分かっていた大きな支出に備えるため、準備金を再構築することが不可欠でした。これらの大きな支出には、対面でのWSC 2026開催費用、コンピューター基盤の更新、WCNA 39への対応、いくつかの職員ポジションの補充、そしてより使いやすいクラウド型の財務システムへの移行などが含まれます。
多くの面で、NAワールドサービスは業務運営を再構築せざるを得ませんでした。私たちは、より少ないリソースでより多くを行うことを求められてきましたが、それを実現するためには、より賢く働き続けるためのインフラへの投資が必要です。COVIDの時期から、痛みを伴いながらも、組織にとって有益な教訓をいくつか学びました。さらなる説明は、2024年年次報告書およびカンファレンス参加者に提供されているその他の財務情報の中に記載されています。
各サイクルの予算準備にあたり、私たちは直近2会計年度の財務実績、NAWSが物理的な拠点を置いているすべての国の現在の経済状況、そして文献を配布している国々の一般的な経済情勢を評価します。そして、その情報の中に、次の予算サイクルの財務状況を予測するうえでの傾向やパターンがないかを検討します。その結果が必ずしも明るいとは限りません。多くの場合、提供を求められるサービスの需要が、利用可能な収入を上回る、あるいは上回り得ることを意味します。パンデミック前の予算サイクルでは、サイクル前半に赤字予算を見込んでいたこともありました。
支出が収入を上回ることが多かったにもかかわらず、十分な運営準備金があったおかげで、予算化されたすべての活動を実行し、さらにコスト増にも対応することができました。その準備金と迅速な人員削減によって、NAワールドサービスは世界的な活動停止を乗り越えることができました。今回も、サイクルの3年目については赤字を見込んでいますが、次の3年サイクル全体としては赤字予算ではありません。それでもなお、サービスへの需要が収入を上回っている状況は続いており、今後も当面はその状態が続くと見られます。
私たちのような非営利組織では、人的資源、財務資源のいずれにおいても、世界規模のフェローシップのすべてのニーズを迅速に満たすのに十分な資源が常に存在することはない、という点を常に念頭に置くことが重要です。地域社会が何かの実現を待たなければならない場面は、しばしば生じます。これは、私たちが奉仕している組織の性質そのものです。資源には限りがありますが、ニーズは無限です。ここ数年にわたり示していただいたNAメンバーおよびコミュニティの忍耐に、私たちは心から感謝しています。そして、できる限り早く物事を前に進めるために取り組んでいることを、ここにお伝えしたいと思います。

この予算における変更点（What Is Different in this Budget）

私たちは、財務諸表の理解と明確さを向上させることを継続的な目標としています。今回のサイクルでは、WSOイランの収入および支出、ならびにインハウス制作を移動しました。インハウス制作の項目は、以前は「文献制作および配布」の下に含まれていましたが、現在は「その他の在庫売上原価」の下に記載されています。これは、この支出の性質をより正確に表しています。
WSOイランの収入および支出は、2025–2026年予算（中間WSCで採択）から始めた慣行に従い、予算の末尾にある非現金項目へと移動されています。イランから資金を合法的に移転する手段が存在しないため、これにより現実をより正確に反映しています。詳細については、この予算表紙の後半にある各項目の説明をご参照ください。

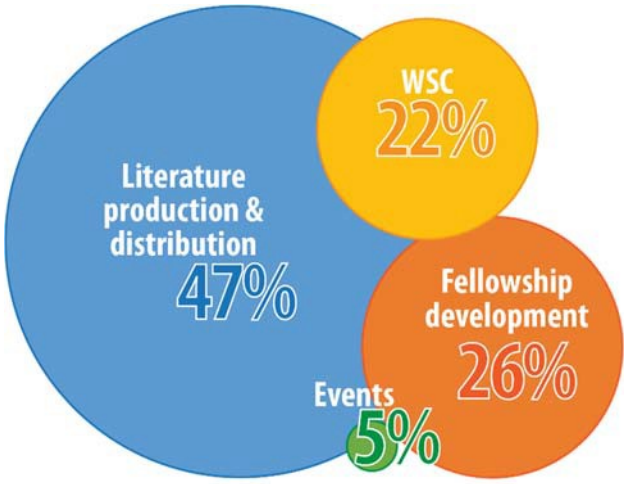
4つの活動分野への固定費配分

（Fixed Costs Allocated Across Four Activity Areas）
NAワールドサービスの活動は、以下の4つのカテゴリーに分類されます。

- 文献制作および配布
- ワールドサービス・カンファレンス（WSC）支援
- フェローシップ開発
- イベント

3年予算を作成するにあたり、私たちは、各活動に従事する職員数、概算の労働時間数、必要とされる建物スペースの量に基づいて、これらのカテゴリーに割合を割り当てています。これらの割合に基づいて各分野の予算を見積もり、継続的・反復的・定常的に発生する固定的な運営費用を、それぞれのカテゴリーに比例配分しています。会計、人事、間接費、テクノロジーに関する総費用は、これらの割合に基づいて分割され、予算上それぞれの費用分野に割り当てられています。

2026–2029年予算における固定費／運営費に割り当てられた割合



これらの割合によって配分される運営費用

私たちは、4つの活動分野において必要とされる労力（時間、スペース、資源）の割合を見積もったうえで、その割合を、配分対象となる4つの費用カテゴリー、すなわち「会計」「人事」「間接費」「テクノロジー」に適用しています。これらの費用は、NAワールドサービスの日常的な運営に不可欠なものであり、単一の機能に簡単に割り当てることはできません。以下に示す予算では、これらの間接費の一部が、今後3年サイクルに向けて設定された割合に基づき、4つの活動分野に配分されています。これらの割合は、前回のサイクルで使用されたものと同一です。

配分される固定運営費用のカテゴリー

会計：これには、年次監査および無作為に行われるフォレンジック監査（スポットチェック）のための専門サービス、サーベンス・オクスリー法により求められる監査コミティの設置および運営にかかる費用、ならびに健全な財務管理に関連するその他の専門サービスが含まれます。
人事：これは、ワールドサービス・オフィスの5拠点すべてにおける職員に関連する、すべての賃金および給与、給与税、健康保険および労災補償保険、研修、採用、転居、退職年金制度に関する費用を反映しています。また、特定の目的のために雇用される契約労働者の人件費も含まれます。

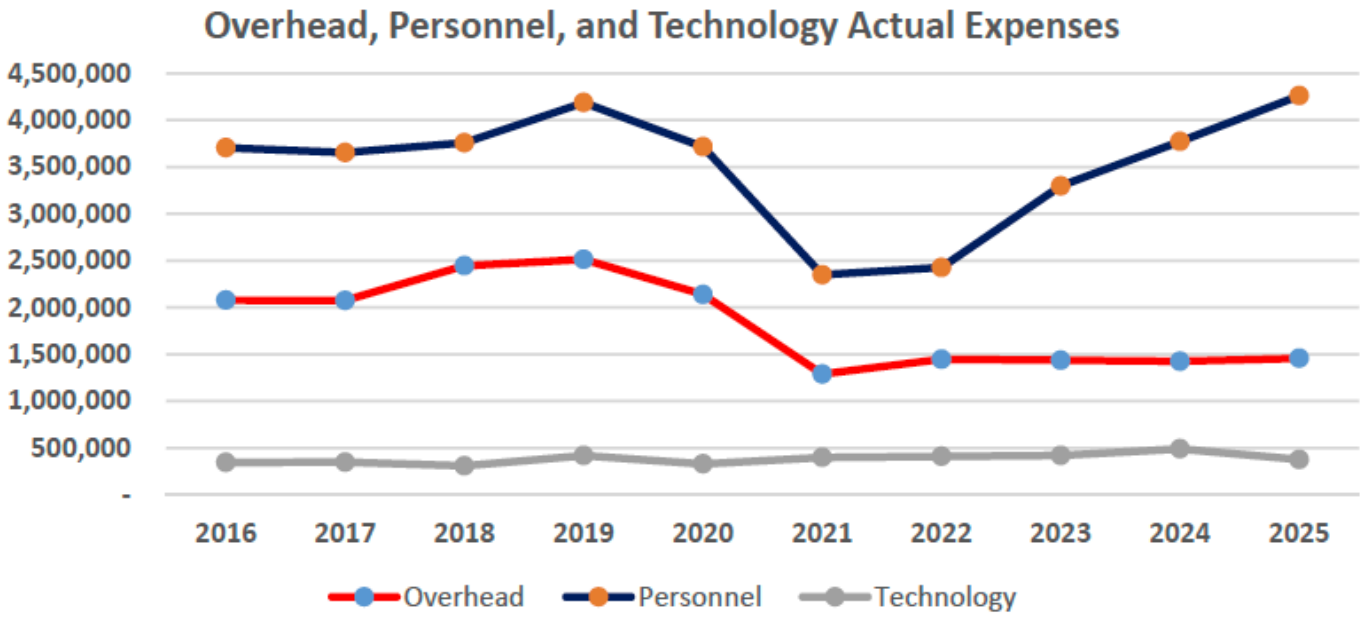
間接費：これには、施設の賃借料、保守および修理、電話、光熱費、郵送料、自動車の整備およびリース、複写機器、事務所経費、一般保険、償却、貸倒損失、減価償却、銀行手数料、ならびにワールドサービス・オフィスの5拠点に関連する各種手数料が含まれます。オンラインストアおよびクレジットカード販売の利用増加に伴い、銀行手数料は引き続き上昇しています。
テクノロジー：これは、情報サービス、コンピューターのリース、ソフトウェア、消耗品、ソフトウェアアプリケーションのアップグレードおよび更新、機器のリースおよび修理、サービス契約に関する費用を反映しています。また、na.orgウェブサイトの維持管理に関する費用、データベース、オンラインでのグループ情報収集およびミーティング情報に関連する費用、ならびにイベント登録のためのウェブおよびソフトウェアの使用料もここに含まれます。

4つの配分対象費用カテゴリーに割り当てられる運営費用

Allocated Expense Category	Base Year Column D	Proposed for FY 2027	% Increase	Proposed for FY 2028	% Increase	Proposed for FY 2029	% Increase
ACCOUNTING	$ 65,415	$ 67,378	3%	$ 69,399	3%	$ 71,481	3%
PERSONNEL	$ 4,017,193	$ 4,499,256	12%	$ 4,904,189	9%	$ 5,198,441	6%
OVERHEAD	$ 1,440,909	$ 1,512,955	5%	$ 1,588,602	5%	$ 1,636,261	3%
TECHNOLOGY	$ 432,532	$ 454,159	5%	$ 472,325	4%	$ 491,218	4%

FY 2024およびFY 2025における配分費用

以下のグラフは、これらの費用の推移を示しています。会計（Accounting）に配分されている費用は少額であるため、このグラフには反映されていません。
このグラフが示しているように、私たちは2023年、2024年、2025年にかけて、職員体制の一部を再構築することができました。同時に、間接費の削減については、その水準を維持することができています。テクノロジー関連費用は、パンデミック期を含め、非常に一貫した水準を保っています。効果的なコミュニケーションのためにテクノロジーへの依存度が高まっていることを考えると、これは非常に大きな成果であると言えます。
このグラフの後には、配分費用の各カテゴリーに含まれる内容についての簡潔な説明が続きます。



4つの活動分野の説明

文献制作および配布

パンデミック期間中、ワールドサービスの資源のうち、文献制作および配布に割り当てられる割合は、過去の年と比べて大きく増加しました。2020年以前は、この割合は通常33〜38%の範囲で予算化されていましたが、世界的な活動停止が起こった際、職員配置や活動の削減の多くは、残りの3つのカテゴリーで行われました。文献制作および配布は、歴史的にNAワールドサービスの財政的エンジンとなってきました。

現在のカタログを支える複雑さから、私たちは今もなお、固定費の大きな割合を文献制作および配布に配分しています。私たちは、これまでになく多くのタイトルを、これまでになく多くの言語で出版しており、これらを出版するために必要な作業量は、サイクルごとに増加しています。現在、文献は61言語で制作されています。FY 2024の終了時点で、私たちのカタログには1,366タイトルが含まれており、その数は今後も増え続けています。私たちは、出版しているすべてのタイトルと、それらが提供されている各言語の一覧を、毎回のCARに掲載しています。

前述のとおり、インハウス制作の項目は、このカテゴリーから売上原価（Cost of Goods Sold）へと移動され、支出の実態をより正確に反映するようにしました。

ワールドサービス・カンファレンス支援

WSC支援には、対面およびオンラインで開催されるミーティングに関する費用、ならびにWSCに直接関連するその他すべての費用が含まれます。これには、ワールドボード、ヒューマン・リソース・パネル、WSC共同ファシリテーターに関するすべての費用、カンファレンスおよびボード関連文書の翻訳、ならびにカンファレンス関連プロジェクトの運営管理が含まれます。2026–2029年予算では、固定費の22%をWSC支援に配分する見込みです。これは、COVID以前の水準と同程度です。

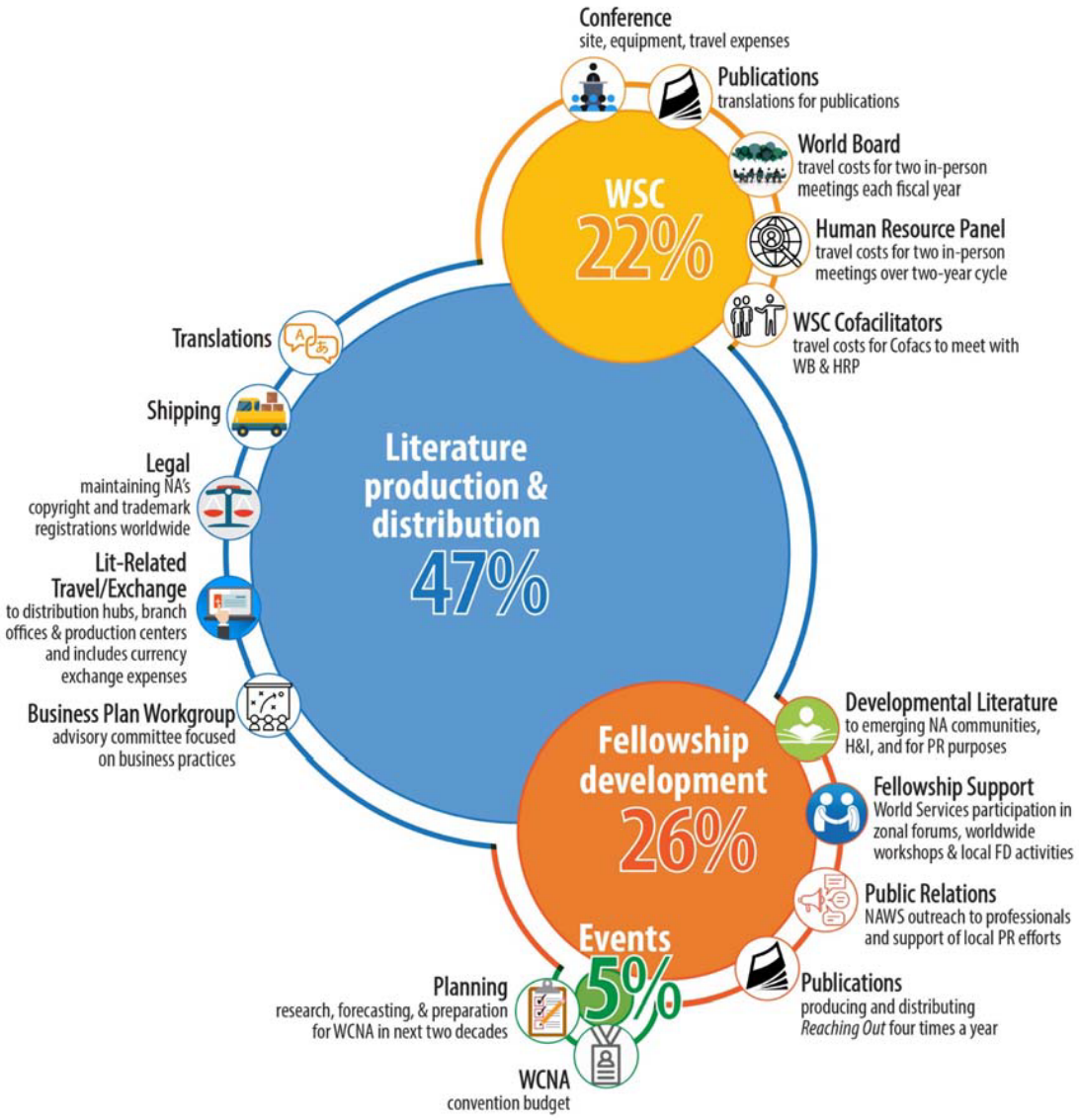
フェローシップ開発

フェローシップ開発（FD）の活動分野には、NAワールドサービスが世界中のNAの継続と成長を支援するために行っている、その他すべての取り組みが含まれます。この予算分野には、個人、グループ、サービス組織に対して提供できる直接的な支援が含まれており、その中には、無償または補助付きで提供される文献にかかる費用の一部も含まれます。また、広報、文書の翻訳、移動費用、フェローシップ向けウェビナー、ワークショップの費用も含まれます。私たちは、徐々に再構築を進める中で、2026–2029年予算の22%をFDに配分していますが、これはパンデミック前の水準よりは低い割合です。

イベント

私たちは2028年にワールド・コンベンションの開催を計画しており、これには相当な時間、労力、資源が必要となります。また、各種フェローシップ・イベントに対して、資料や支援を提供しています。2026–2029年については、直近の数回の予算と同様に、5%の配分を維持しています。ワールド・コンベンションが近づくにつれて、この分野での活動は増加しますが、サイクル全体で見れば、5%は現実的な平均値であると考えています。

Activity Areas of the NAWS Budget	Base Year Column D	Proposed for FY 2027	Proposed for FY 2028	Proposed for FY 2029
Literature Production & Distribution	$ 3,035,324	$ 3,374,334	$ 3,593,049	$ 3,772,210
World Service Conference Support	$ 1,441,611	$ 1,643,424	$ 1,721,553	$ 2,440,707
Fellowship Development	$ 2,368,719	$ 2,543,290	$ 2,698,825	$ 2,819,270
Events	$ 353,357	$ 334,187	$ 366,726	$ 385,320



予算書の読み方

これまでのページでは、当団体の予算の枠組みについて説明してきました。具体的には、4つの活動分野（文献制作・配布、WSC支援、フェローシップ開発、イベント）と、それらに按分される4つの恒常的・配分対象経費（会計、人件費、間接費、テクノロジー）です。これらは「固定運営費」または「固定費」と呼ばれ、活動分野ごとに一定の割合で配分されています。

続くページでは、2026年から2029年の提案予算に影響する詳細と、予算および財務報告書の各項目に何が含まれているのかを説明しています。この説明文を読み進める際には、実際の予算表を手元に置き、該当箇所を確認しながら読むと理解しやすくなります。このセクションは、いわば予算全体のロードマップとして捉えてください。提案予算には、今後3年間に向けた多くの情報が含まれています。最初の列には項目名が記載され、その後に2024会計年度の監査済み実績、2025会計年度の未監査実績が続きます。次の「基準年」列では、これら2年間の平均、または年換算した数値が示されています。最後の4列には、2027年度、2028年度、2029年度それぞれの提案額と、3年間合計が示されています。特記がない限り、この基準年の数値をもとに、2027年から2029年までの予算を調整なしで算出しています。

2026年〜2029年 ワールドサービス収入予測

収入予測の調整について

本予算では、フェローシップからの寄付金が各会計年度ごとに2%増加すると見込んでいます。これは理想的な目標ではありますが、私たちの将来はこの成長にかかっています。
文献収入については、2027年度に9%の増加、その後の年度はそれぞれ2%の増加を見込んでいます。2026年に実施される15%の価格改定が、初年度の増加率が高い理由です。ただし、多くの地域サービスオフィスでは値上げ前に文献をまとめて購入する傾向があるため、15%全体をそのまま反映してはいません。
残りの年度の2%増は、現在の文献売上が横ばいであるという現状を反映しています。一方で、これら商品の原価は、毎年6%増加すると見込んでおり、売上増加率を下回る水準となっています。

回復文献

この区分には、フェローシップ知的財産信託で定義されている、フェローシップ承認済みの回復文献がすべて含まれます。各書籍タイトルは個別の項目として示されていますが、電子書籍については、すべての電子文献の売上をまとめた1項目として計上されています。
その他の回復文献収入には、承認済みのパンフレットやブックレットが含まれます。これらはすべて無償でウェブサイト上に公開されているため、この収入項目は継続的に減少しています。
また、上記の増加見込みに加えて、「NAサバイバルキット」の収入予測を調整しています。2025年度の数値は、発売初年度の売上を反映しており、通常より高くなる傾向があります。そのため、基準年では、現在の販売水準をより正確に反映するよう、数値を引き下げています。

その他の在庫品

この区分には、キータグ、メダリオン、サービス用資材が含まれており、それぞれが個別の項目として表示されています。キータグとチップについては、現在の販売水準をより正確に反映するため、基準年の数値を引き上げました。これは、グループ活動が健全であることを示す前向きな指標だと考えています。

送料

送料収入は、文献売上の見込みと、実績を年換算した収入および支出をもとに算出しています。

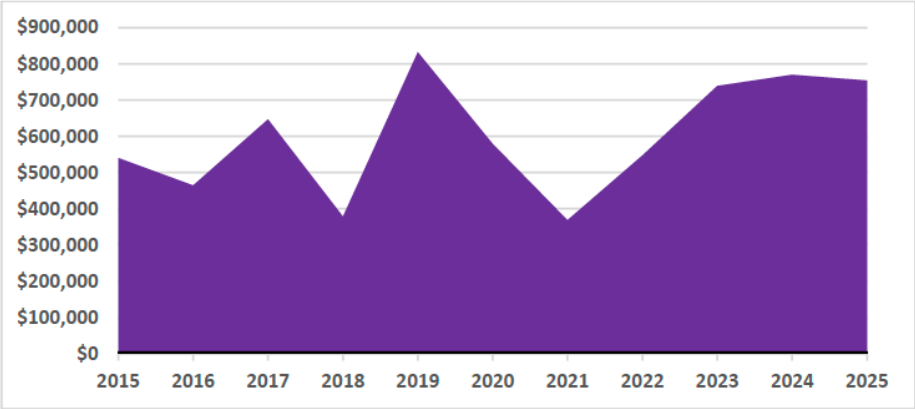
割引

割引額は、想定される文献売上と、その売上に対する割引率をもとに算出しています。割引率は、注文数量や契約の有無によって異なります。

開発支援補助および割当

この項目は、世界各地で成長途上にあるフェローシップに対して提供される文献について、価格を補助または減額するための費用を示しています。多くの場合、無償提供も含まれます。対象には、新しく立ち上がったコミュニティ、発展途上の地域、災害支援として送付される文献、そして刑務所にいるメンバーへの提供が含まれます。ここで示されている金額は、NAワールドサービスから直接提供された文献の価値、すなわちNAワールドサービスにおける収入への影響分のみを表しています。この費用の全体像を把握するには、フェローシップ開発の支出項目にある「開発文献」という行の金額を加える必要があります。この開発文献の金額には、送料、通関費用、関税といった直接的な経費が含まれています。2024会計年度におけるこれらを合算した総額は769,958ドルでした。2025会計年度は754,054ドルとなっています。私たちは、この重要なサービスにかかる費用を安定させるため、アルゼンチン、ブラジル、ロシア、エジプトなど、複数の代替拠点で印刷を行う取り組みを進めてきました。これらの地域では、通関上の問題により、文献を安定的かつ十分な数量でメンバーに届けることが困難な状況があります。現地印刷のライセンスを認めているのは、このように文献を確実に届けることができない場合に限られています。なお、この「開発支援補助および割当」の金額には、これらの拠点を通じて配布されている無償または補助付き文献は含まれていません。実際には、その価値はここに示されている金額を上回っています。

無償および補助付き文献（2015年〜2025年）



これらの区分の後に、**総文献収入**の小計が示されています。これは、割引適用後に受け取ったすべての資金を意味します。**純収入**を算出するためには、まず文献を製作するための費用を差し引く必要があります。

売上原価

純収入を算出するために、前述の内容および実際の予算書の最初のページに記載されている金額から、売上原価を差し引きます。売上原価は、次の二つの区分に分かれています。

回復文献の売上原価

この区分には、回復文献を製作するための費用が含まれています。これは、製造工程の開始から、完成した文献が在庫として保管されるまでのすべての工程を含みます。
これまで私たちは、職員による調達や在庫確保の工夫、費用対効果が高く信頼性のある製造プロセスを活用することで、多くの出版社が経験してきた売上原価の上昇を回避してきました。しかし、

その状況はすでに変わっています。世界的な紙製品不足は、出版業界の変化が続く中で、今後もコストに影響を与え続ける見込みです。ここに示されている売上原価は、各項目の収入欄に記載されている数量と直接連動しています。
なお、回復文献およびその他在庫の各項目は、各会計年度ごとに6%のコスト増を反映しています。売上原価の上昇は非常に大きなものとなっていますが、現時点で把握している情報に基づく、最善の見積もりです。

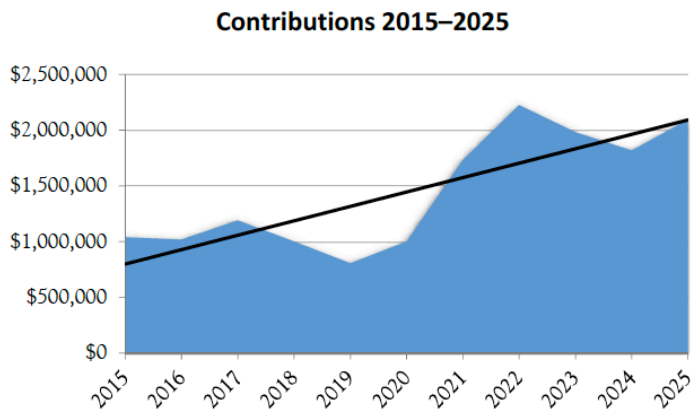
その他在庫の売上原価
この区分は、前のセクションで「その他在庫収入」として示されている項目に関連するコストを反映しています。主にメダリオン、キータグ、サービス用資材が含まれます。

翻訳
翻訳費用の大部分は、この項目には含まれていません。この項目に含まれるのは、特定のプロジェクトごとの売上原価にすでに計上されていない、回復文献およびサービス資料を英語以外の言語に翻訳するための直接的な費用のみです。回復文献やサービス資料の翻訳費用の大半は、各プロジェクトごとの売上原価に含まれており、定期刊行物の翻訳費用は「出版物」の二つの項目に計上されています。

内製制作
この項目には、翻訳された小冊子や情報パンフレット、サービス用資料、出版物の大部分を印刷するための複製機器のリース費用が含まれます。翻訳物の内製制作に使用していた機器の一台についてリースを終了したため、基準年度の金額を引き下げました。この機器で制作されていた物品に充てられていた費用は、他の多くの在庫と同様に外部委託となり、そのコストは売上原価に反映されます。

純文献収入
この時点の予算、資料を追っている場合は2ページ目において、総文献収入から、文献を製作するためのコストを差し引いた純文献収入の小計が算出されています。差し引かれているのは、予算の2ページ目に詳述されている売上原価です。

フェローシップからの献金
私たちは献金について長年にわたり話し合ってきましたが、パンデミックをきっかけに、フェローシップはこれまでにない形で応えてくれました。下の図は、必要性が理解され、それに応えようと



する意志が共有されたときに、何が起こり得るかを示しています。これまで繰り返し述べてきたとおり、この反応に対して感謝してもしきれません。これは、世界中のメンバー、グループ、サービス機関が協力して取り組んだ結果です。心から感謝します。

今後はどうするのでしょうか。地域レベルで他のニーズや優先事項が生じ、支出が増え続ける中で、どのようにしてこの勢いを維持していくのでしょうか。私たちはすべての答えを持っているわけではありませんが、対話を続けていくつもりです。NAサービスへの資金提供を献金によって増やす必要が、NAのサービス構造全体に存在していることを私たちは認識しています。この予算では、各会計年度ごとに献金が2パーセント増加することを見込んでいます。これは意欲的な目標かもしれませんが、私たちの将来にとって不可欠です。
ワールドボードは、私たちのビジョンへの投資、そしてメンバーがどのようにNAを支えているかという点に焦点を当てながら、この対話を引き続き最優先事項としていきます。フェローシップとして、私たちは自立支援に対する集団的な意識を変えることができること、そして文化的な変化が大きな影響をもたらすことを自ら示してきました。サービスの主要な資金源を献金とする方向へ進むために、引き続き注意と協力をしてくださっていることに感謝します。

ライセンスベンダー支払、利息、その他

ライセンスベンダー支払とは、主にNAワールドサービスでは製作していない資材について、フェローシップの商標を保護する目的でライセンスを付与している業者からの収入です。この収入見積もりは、過去の実績に基づいています。利息収入は、手元資金の減少により、基準年度よりも少なく見込まれています。

事業収入

収入の最後の項目では、これまでに計上されたすべての内容を合算し、各年度およびサイクル全体の事業収入総額を算出しています。

2026年から2029年のワールドサービス支出見込み

次のセクションでは、先に説明した四つの活動分野、すなわち文献製作・流通、ワールドサービスカンファレンス支援、フェローシップ育成、イベントに分類された支出が示されています。配分支出である会計、人件費、間接費、テクノロジーについての増加見込みは、この予算説明の3ページ目で説明済みです。
その他の多くの支出は、基準年度をもとに、各会計年度ごとに3パーセントの増加として算出されています。例外や調整については以下に記載されています。

文献製作・流通

このセクションは、NAの文献をフェローシップおよびフェローシップ外の顧客に流通させるための支出を対象としています。流通は、チャッツワースのワールドサービスオフィスおよびカナダ、ベルギー、インド、イランの支部を通じて行われます。

固定運営費
売上原価合計に含まれない、文献製作・流通に関わるすべての費用が含まれます。

ビジネスプラン・ワークグループ

このワークグループは、NAワールドサービスの日常的な業務運営に焦点を当て、事業に関する事項についてワールドボードに提言を行います。また、法令で求められている監査コミティの機能の一部も担っています。このワークグループの役割と費用は、カンファレンスの同意を得て、固定運営費に移されました。このグループは主にオンラインで会合を行いますが、必要に応じて次期サイクル中に対面での会合を一度行う可能性があります。

法務

これは主に、ナルコティクス・アノニマス、NAの道、NAロゴ、グループロゴ、サービスシンボル、ならびにすべての回復文献およびサービス資料に関する、世界的な著作権および商標登録を維持するための直接的な登録費用および法的費用です。また、知的財産を保護するためのその他の直接費用が含まれる場合もあります。

文献製作・流通の出張および為替関連費用

この項目は、世界各地の支部事務所や文献製作拠点と直接やり取りするための費用を確保するものです。また、為替差損益も含まれます。2025年度の数値が例外的に低いため、この項目の見積もりには基準年度ではなく2024年度の実績を使用しました。

ワールドサービスカンファレンス支援

固定運営費

このセクションは、ワールドサービスカンファレンスに関連するすべての活動を支援するための支出を対象としています。

出版物

主にNAワールドサービスニュースおよびCARの翻訳に関連する費用です。現在は紙媒体の報告書を制作・配布していないため、この内容に限定されています。2026年から2029年に想定される作業量に備え、わずかに増額しています。

ワールドサービスカンファレンス

会場および機材の費用、職員、ワールドボード、カンファレンス共同進行役、人材リソースパネルのための資金、ならびに前回の対面開催時に129名、現在は134名となった世界各地からのデリゲートの渡航費用が含まれます。カンファレンスがより本格的なハイブリッド形式になるにつれ、音響映像およびテクノロジー関連の費用は増加しています。

ワールドボード

ワールドボードは、各会計年度に2回の対面会合を予定しています。これは、パンデミック以前のサイクルで一般的だった2年間に7回または8回の会合と比べると、大幅な削減です。この項目には、ワールドボードに付随する諸費用も含まれます。ワールドボードは2020年以降、ほぼ毎月オンラインで会合を行っており、エグゼクティブコミティは2週間ごとにオンライン会合を行っています。2029年度には、世界コンベンション39に対応するため、追加のワールドボード会合が含まれています。
エグゼクティブコミティは、対面会合をワールドボード会合と同時期に行うよう引き続き調整しています。

人材リソースパネル

このグループは、推薦作業を行うため、サイクル中に年1回の対面会合を予定しています。過去には1サイクルにつき5回会合を行っていました。対面会合の一部は、オリエンテーションと研修に充てられます。サイクルの初期段階で対面で集まることで、その後のオンライン会合がより生産的になることが分かっています。

カンファレンス共同進行役

カンファレンス共同進行役は、ワールドボードおよび人材リソースパネルとともに、カンファレンス準備のために1回または2回の対面会合を予定しています。

フェローシップデベロップメント

固定運営費

このセクションは、フェローシップを支援するための支出を対象としています。

出版物

年4回発行される「リーチングアウト」の制作、出版、配布に関する見込み費用です。受刑中のメンバーに配布されることを目的としているため、「リーチングアウト」は、電子配布のみにできない唯一の出版物です。

フェローシップ支援

主にワークショップやフォーラムを通じた、フェローシップとの直接的な交流です。ゾーンフォーラム、ワークショップ、地域でのフェローシップ育成活動への関与、ならびにアフリカゾーンフォーラムなどのイベントへの資金提供が含まれます。この予算で割り当てられている金額は、過去のサイクルより少ないため、出張は一部にとどまり、多くの交流は引き続きオンラインで行う必要があります。

フェローシップ支援および広報の基準年度額は、フェローシップのニーズを支え、ビジョン・ステートメントを実現し、2026年から2029年の戦略計画に記載された取り組みを支援するという私たちの姿勢を反映して引き上げられています。これらの資金は、利用可能な場合にのみ支出されます。

広報

これは、さまざまな分野の専門職に対して、NAがアディクトのための地域資源であることを伝えることにより、NAの第一の目的を推進するためのNAワールドサービスの取り組みにかかる費用です。専門職向けイベントへの参加や協力、地域で行われる広報活動への協力が含まれます。これらの活動は、日常的にアディクトと関わる人々や一般市民に届きます。

また、矯正や治療などの専門分野向け出版物において、ナルコティクス・アノニマスに関する情報を提供するための費用も含まれます。NAおよびNAの回復文献に対する認知が高まることで、専門職がアディクトをNAフェローシップにつなげやすくなります。

育成用文献

成長中のNAコミュニティ、病院や施設、広報目的のために無償で文献を配布する費用です。これには、増加し続けている輸送費、通関費、関税も含まれます。実際の金額については、収入の項目にある「育成補助および手当」の説明を参照してください。

イベント

固定運営費

このセクションは、イベントの企画および支援に関連する、フェローシップに関わる固定費用を対象としています。

将来および過去のコンベンション
これまで同時に最大5つのコンベンションを企画していたことに関連する費用です。世界コンベンションの開催頻度を下げる提案をしているため、この項目は減額されています。

予算案を追っている場合、この時点で、各会計年度およびサイクル全体の支出合計、ならびに現金活動のみを対象とした超過収入または超過支出が示されています。この予算案では、3年間全体で84,556ドルの超過収入が見込まれており、サイクル全体としては非常に小さな純利益となっています。予算には、資金が利用可能な場合にのみ支出する裁量がある項目が多数含まれています。
現金活動のみの超過収入または超過支出の下に、以前は間接費として報告されていた次の項目を追加しています。

償却費および減価償却費
償却および減価償却は、資産の取得費用や価値を耐用年数にわたって配分する会計処理です。償却は商標や著作権などの無形資産に使用され、減価償却は設備や家具などの有形資産に使用されます。これらは、一般に認められた会計原則に基づいて計上される非現金支出です。

この後に、支出合計およびイランを除いた超過収入または超過支出が示されています。

ワールドサービスオフィス・イラン
前述のとおり、イラン事務所の収入および支出を報告するために義務付けられている為替レートの影響により、これらの数値は実態を大きく歪めています。2025年度の財政状態計算書では、イランにある現金は421,326ドルと示されていますが、実際に利用可能な為替レートでは19,337ドルに相当します。同じ計算書では、イラン事務所の在庫が5,844,611ドルと示されていますが、これも現実とは大きくかけ離れています。
私たちは、この事務所について、イラン国外では使用できない余剰資金を生まないよう意図的に管理を続けています。この支部は毎年監査を受けており、運営は非常に優れています。財務報告の数値がこれほど歪んでいるのは、米国の会計要件によるものです。
ここでは、イラン事務所の文献収入、売上原価、支出、そしてイランにおける純額が示されています。これらをより正確に報告できればよいのですが、それができないのが現状です。
先に報告したとおり、世界コンベンション39については、開催地が未定であるため、予算には含めていません。コンベンションの財務に関する情報は、進捗に応じてカンファレンス参加者にお知らせします。

その他の財務に関する注記
出張者に対する食費および雑費の支給額を、70ドルから75ドルに引き上げることを提案しています。ロサンゼルスにおける米国政府の基準額は最大86ドルであり、現在、低コスト地域では74ドルとされています。2026年から2029年に適用される予定の払い戻し方針案は、次回カンファレンスでの検討のため、このカンファレンス承認トラック資料一式に含まれています。

NARCOTICS ANONYMOUS WORLD SERVICES, INC.

PROPOSED BUDGET FOR FISCAL YEARS 2027, 2028, and 2029

	2023-24 Actual	2024-25 Actual	Base Year	Proposed July 2026 - June 2027	Proposed July 2027 - June 2028	Proposed July 2028 - June 2029	Cycle Total for Fiscal Years 2027 to 2029
	audited totals	unaudited totals					
INCOME							
RECOVERY LITERATURE INCOME							
BASIC TEXT: Hardcover English	$1,867,012	$1,887,244	$1,877,128	$2,046,070	$2,086,991	$2,128,731	$6,261,792
BASIC TEXT: Translated	231,047	267,486	249,267	271,701	277,135	282,677	831,512
BASIC TEXT: Softcover	991,068	890,135	940,601	1,025,255	1,045,760	1,066,676	3,137,692
JUST FOR TODAY	814,059	783,237	798,648	870,526	887,937	905,696	2,664,159
IT WORKS: HOW & WHY	676,428	653,075	664,751	724,579	739,071	753,852	2,217,501
SPONSORSHIP BOOK	26,302	29,089	27,696	30,188	30,792	31,408	92,389
STEP WORKING GUIDES	879,547	861,706	870,627	948,983	967,963	987,322	2,904,268
LIVING CLEAN	428,159	397,375	412,767	449,916	458,914	468,092	1,376,923
GUIDING PRINCIPLES	149,768	153,830	151,799	165,461	168,770	172,146	506,377
A SPIRITUAL PRINCIPLE A DAY	395,336	326,822	361,079	393,576	401,448	409,477	1,204,500
NA SURVIVAL KIT	0	419,764	220,376	240,210	245,014	249,914	735,138
ePUB BOOKS	83,126	80,386	81,756	89,114	90,896	92,714	272,725
OTHER RECOVERY LITERATURE	1,192,476	1,203,112	1,197,794	1,305,596	1,331,708	1,358,342	3,995,645
Subtotal	**$7,734,329**	**$7,953,262**	**$7,843,795**	**$8,561,176**	**$8,732,399**	**$8,907,047**	**$26,200,622**
OTHER INVENTORY INCOME							
MEDALLIONS	$958,993	$996,169	$977,581	$1,065,563	$1,086,875	$1,108,612	$3,261,050
KEYTAGS & CHIPS	1,277,779	1,289,649	1,308,993	1,426,803	1,455,339	1,484,446	4,366,588
NON-FIPT INFORMATION BOOKLETS	8,280	8,730	8,505	9,271	9,456	9,645	28,373
SERVICE MATERIAL	169,551	177,671	173,611	189,236	193,021	196,882	579,139
SPECIALTY ITEMS	102,460	159,599	131,029	142,822	145,678	148,592	437,092
MIRACLES HAPPEN	19,726	19,334	19,530	21,288	21,714	22,148	65,149
Subtotal	**2,536,791**	**2,651,152**	**2,593,971**	**2,854,983**	**2,912,083**	**2,970,325**	**8,737,391**
SHIPPING	$620,952	$631,767	$626,360	$682,732	$696,387	$710,314	$2,089,433
DISCOUNTS	(1,489,922)	(1,552,543)	(1,521,233)	(1,658,144)	(1,691,306)	(1,725,133)	(5,074,582)
DEVELOPMENTAL SUBSIDIES & ALLOWANCES	(205,817)	(256,251)	(231,034)	(251,827)	(256,863)	(262,001)	(770,691)
Subtotal	**($1,074,787)**	**($1,177,027)**	**($1,125,907)**	**($1,227,238)**	**($1,251,783)**	**($1,276,819)**	**($3,755,841)**
Gross Literature Income (less discounts)	**9,196,332**	**9,427,388**	**9,311,860**	**10,188,920**	**10,392,699**	**10,600,553**	**31,182,172**

	2023-24 Actual	2024-25 Actual	Base Year	Proposed July 2026 - June 2027	Proposed July 2027 - June 2028	Proposed July 2028 - June 2029	Cycle Total for Fiscal Years 2027 to 2029
RECOVERY LITERATURE COST OF GOODS SOLD							
BASIC TEXT: Hardcover English	$411,740	$431,033	$421,386	$446,669	$473,470	$501,878	$1,422,017
BASIC TEXT: Translated	62,542	72,295	67,418	71,463	75,751	80,296	227,511
BASIC TEXT: Softcover	137,207	149,930	143,569	152,183	161,314	170,992	484,489
JUST FOR TODAY	121,136	119,902	120,519	127,750	135,415	143,540	406,704
IT WORKS: HOW & WHY	116,130	130,427	123,279	130,675	138,516	146,827	416,018
SPONSORSHIP BOOK	6,241	5,943	6,092	6,458	6,845	7,256	20,559
STEP WORKING GUIDES	120,488	135,568	128,028	135,710	143,852	152,484	432,046
LIVING CLEAN	87,618	89,087	88,353	93,654	99,273	105,229	298,156
GUIDING PRINCIPLES	20,515	18,758	19,636	20,815	22,063	23,387	66,265
A SPIRITUAL PRINCIPLE A DAY	40,776	46,620	43,698	46,320	49,099	52,045	147,463
NA SURVIVAL KIT	-	104,171	57,971	61,450	65,137	69,045	195,631
ePUB BOOKS	24,938	24,116	24,527	25,998	27,558	29,212	82,769
OTHER RECOVERY LITERATURE	271,338	365,440	318,389	337,493	357,742	379,207	1,074,442
Subtotal	**1,420,669**	**1,693,289**	**1,556,979**	**1,656,637**	**1,756,035**	**1,861,397**	**5,274,069**
OTHER INVENTORY COST OF GOODS SOLD							
MEDALLIONS	$193,268	$212,200	$202,734	$214,898	$227,792	$241,460	$684,150
KEYTAGS & CHIPS	272,140	382,517	332,533	352,485	373,634	396,052	1,122,172
NON-FIPT INFORMATION BOOKLETS	1,790	1,574	1,682	1,783	1,890	2,003	5,675
SERVICE MATERIAL	49,616	65,903	57,760	61,225	64,899	68,793	194,917
SPECIALTY ITEMS	25,656	60,296	42,976	45,555	48,288	51,185	145,027
MIRACLES HAPPEN	4,565	7,240	5,902	6,256	6,632	7,030	19,918
Subtotal	**$547,035**	**$729,730**	**$643,587**	**$682,202**	**$723,134**	**$766,522**	**$2,171,859**
IN HOUSE PRODUCTION	$798,331	$807,000	$650,000	689,000	730,340	774,160	2,193,500
SHIPPING	637,816	588,429	613,123	649,910	688,904	730,239	2,069,053
TRANSLATIONS (not included in Cost of Goods)	25,983	50,902	38,442	40,749	43,194	45,786	129,728
INVENTORY ADJUSTMENT	1,023	154	589	0	0	0	-
Subtotal	**$1,463,154**	**$1,446,486**	**$1,302,154**	**$1,379,659**	**$1,462,438**	**$1,550,185**	**$4,392,282**
Total Cost of Goods Sold	**$3,430,858**	**$3,869,504**	**$3,502,720**	**$3,718,498**	**$3,941,608**	**$4,178,104**	**$11,838,209**
Net Literature Income	***$5,765,474***	***$5,557,883***	***$5,661,679***	***$6,470,423***	***$6,451,091***	***$6,422,449***	**$19,343,963**

	2023-24 Actual	2024-25 Actual	Base Year	Proposed July 2026 - June 2027	Proposed July 2027 - June 2028	Proposed July 2028 - June 2029	Cycle Total for Fiscal Years 2027 to 2029
FELLOWSHIP CONTRIBUTIONS by donor type							
BREAKDOWN BY DONOR TYPE							
Members	$322,472	$798,376	$560,424	$571,633	$583,065	$594,727	$1,749,424
Groups	234,204	127,749	180,977	184,596	188,288	192,054	564,938
Areas	231,007	206,093	218,550	222,921	227,380	231,927	682,228
Regions	932,504	833,379	882,942	900,600	918,612	936,985	2,756,198
Events/Conventions	12,103	35,388	23,745	24,220	24,705	25,199	74,123
Unity Day		34,071	17,035	17,376	17,723	18,078	53,177
Zonal & Other Forums	84,685	58,447	71,566	72,997	74,457	75,947	223,401
Total Contributions	***$1,816,975***	***$2,093,503***	***$1,955,239***	***$1,994,344***	***$2,034,231***	***$2,074,915***	***$6,103,490***
Other Income							
LICENSED VENDOR PAYMENTS	$53,810	$50,050	$51,930	$50,000	$50,000	$50,000	$150,000
INTEREST	75,556	157,421	116,488	60,000	60,000	60,000	$180,000
MISCELLANEOUS	11,172	(7,367)	1,902	0	0	0	0
INTERBRANCH	2,195		0	0	0	0	0
Total Other Income	***$142,732***	***$200,103***	***$171,418***	***$110,000***	***$110,000***	***$110,000***	***$330,000***
OPERATING INCOME *(Not including event specific)*	***$7,725,182***	***$7,851,489***	***$7,788,336***	***$8,574,766***	***$8,595,322***	***$8,607,364***	***$25,777,452***

	2023-24 Actual	2024-25 Actual	Base Year	Proposed July 2026 - June 2027	Proposed July 2027 - June 2028	Proposed July 2028 - June 2029	Cycle Total for Fiscal Years 2027 to 2029
EXPENSE							
LITERATURE PRODUCTION & DISTRIBUTION							
FIXED OPERATIONAL EXPENSES							
BUSINESS PLAN WORKGROUP	0	0	0	25,000	0	0	25,000
LEGAL	119,011	152,305	135,658	139,728	143,919	148,237	431,884
LIT P&D TRAVEL AND EXCHANGE EXPENSES	138,745	62,831	100,788	138,745	142,907	147,195	428,847
ACCOUNTING	$ 30,209	$ 31,282	$ 30,745	$ 31,668	$ 32,618	$ 33,596	$ 97,881
PERSONNEL (Includes amt budgeted to variable projects)	1,773,027	2,001,442	1,887,235	2,114,650	2,304,969	2,443,267	6,862,887
OVERHEAD	670,785	684,432	677,609	711,089	746,643	769,042	2,226,774
TECHNOLOGY	230,134	176,447	203,290	213,455	221,993	230,872	666,320
Total Literature Production & Distribution	***$2,961,910***	***$3,108,739***	***$3,035,324***	***$3,374,334***	***$3,593,049***	***$3,772,210***	***$10,739,593***
WORLD SERVICE CONFERENCE SUPPORT							
FIXED OPERATIONAL EXPENSES							
PUBLICATIONS	$3,311	$766	$2,039	$10,000	$10,300	$10,609	$30,909
WORLD SERVICE CONFERENCE IN PERSON MTG	1,527	1,062	1,294	60,000	30,000	600,000	690,000
WORLD BOARD	130,270	109,347	119,808	122,000	125,660	188,430	436,090
HUMAN RESOURCE PANEL	8,654	7,237	7,946	8,000	8,000	8,240	24,240
WSC COFACILITATORS	-	-	-	6,000	-	6,000	12,000
ACCOUNTING	$ 14,140	14,642	$ 14,391	14,823	15,268	15,726	$ 45,817
PERSONNEL (Includes amt budgeted to variable projects)	830,086	938,182	884,134	989,836	1,078,922	1,143,657	3,212,415
OVERHEAD	313,311	320,373	316,842	332,850	349,493	359,977	1,042,320
TECHNOLOGY	107,722	82,592	95,157	99,915	103,911	108,068	311,894
Total World Service Conference Support	***$1,409,021***	***$1,474,201***	***$1,441,611***	***$1,643,424***	***$1,721,553***	***$2,440,707***	***$5,805,685***

	2023-24 Actual	2024-25 Actual	Base Year	Proposed July 2026 - June 2027	Proposed July 2027 - June 2028	Proposed July 2028 - June 2029	Cycle Total for Fiscal Years 2027 to 2029
FELLOWSHIP DEVELOPMENT							
FIXED OPERATIONAL EXPENSES							
PUBLICATIONS	$13,526	$14,366	$13,946	$14,364	$14,795	$15,239	$44,398
FELLOWSHIP SUPPORT	151,906	91,768	200,000	206,000	212,180	218,545	636,725
PUBLIC RELATIONS	55,431	64,232	75,000	77,250	79,568	81,955	238,772
DEVELOPMENTAL LITERATURE	564,141	497,803	530,972	546,901	563,308	580,208	1,690,417
ACCOUNTING	$16,711	17,305	$17,008	17,518	18,044	18,585	$ 54,147
PERSONNEL (Includes amt budgeted to variable projects)	981,010	1,108,760	1,044,885	1,169,807	1,275,089	1,351,595	3,796,490
OVERHEAD	370,277	378,622	374,449	393,368	413,037	425,428	1,231,833
TECHNOLOGY	127,308	97,609	112,458	118,081	122,804	127,717	368,602
Total Fellowship Development	***$2,280,310***	***$2,270,465***	***$2,368,719***	***$2,543,290***	***$2,698,825***	***$2,819,270***	***$8,061,385***
EVENTS							
FIXED OPERATIONAL EXPENSES							
FUTURE (AND PRIOR) CONVENTIONS	$111,021	$0	$55,510	$7,500	$15,000	$15,450	37,950
ACCOUNTING	$3,214	3,328	$3,271	3,369	3,470	3,574	$ 10,413
PERSONNEL (Includes amt budgeted to variable projects)	188,656	213,223	200,939	224,963	245,209	259,922	730,094
OVERHEAD	71,207	72,812	72,009	75,648	79,430	81,813	236,891
TECHNOLOGY	24,482	18,771	21,627	22,708	23,616	24,561	70,885
Total Events	***$398,579***	***$308,134***	***$353,357***	***$334,187***	***$366,726***	***$385,320***	***$1,086,233***
EXPENSE (For activity areas only)	***$7,049,819***	***$7,161,539***	***$7,105,679***	***$7,895,235***	***$8,380,153***	***$9,417,507***	***$25,692,896***
EXCESS REVENUE/EXPENSE *(Cash Activities only)*	***$675,362***	***$689,950***	***$682,656***	***$679,531***	***$215,168***	***($810,143)***	***$84,556***

	2023-24 Actual	2024-25 Actual	Base Year	Proposed July 2026 - June 2027	Proposed July 2027 - June 2028	Proposed July 2028 - June 2029	Cycle Total for Fiscal Years 2027 to 2029
Non Cash Items							
Depreciation and Amortization Expense	253,362	266,401	259,882	375,000	$386,250	$397,838	$1,159,088
TOTAL EXPENSE	***$7,303,182***	***$7,427,940***	***$7,365,561***	***$8,270,235***	***$8,766,403***	***$9,815,345***	***$26,851,984***
EXCESS REVENUE/EXPENSE (without Iran)	***$ 422,000***	***$ 423,549***	***$ 422,775***	***$ 304,531***	***$ (171,082)***	***$ (1,207,981)***	***$ (1,074,531)***
IRAN TOTALS							
LITERATURE INCOME	5,692,604	385,424	3,039,014	3,312,525	3,378,776	3,446,351	10,137,652
LITERATURE PRODUCTION Cost of Goods	(1,755,481)	(272,621)	(1,014,051)	(1,074,894)	(1,139,388)	(1,207,751)	(3,422,033)
LITERATURE DISTRIBUTION Expenses	(1,455,457)	(58,533)	(756,995)	(779,705)	(803,096)	(827,189)	(2,409,990)
Iran Net	2,481,666	54,270	1,267,968	1,457,926	1,436,292	1,411,411	4,305,630
EXCESS REVENUE/EXPENSE (Including Iran)	***$ 2,903,666***	***$ 477,819***	***$ 1,690,743***	***$ 1,762,457***	***$ 1,265,210***	***$ 203,431***	***$ 3,231,099***
INCREASE (DECREASE) NET ASSETS	***$ 2,903,666***	***$ 477,819***	***$ 1,690,743***	***$ 1,762,457***	***$ 1,265,210***	***$ 203,431***	***$ 3,231,099***
INCREASE (DECREASE) without IRAN	***$ 422,000***	***$ 423,549***	***$ 422,775***	***$ 304,531***	***$ (171,082)***	***$ (1,207,981)***	***$ (1,074,531)***

宛先: WSC 2026 参加者各位
差出人: ワールドボード
日付: 2026年2月3日
件名：WSC議席申請について
本報告書には以下の内容が含まれます：
A. 2026年WSC議席申請
B. 各地域から提出された議席申請書（記入済み）
C. 議席に関する背景及び最近の会議決定事項
D. NA世界サービスガイドに基づくWSC新規地域議席付与基準

A. 2026年WSC議席申請
2025年5月1日の締切までに、2つの地域が会議席を申請しました：地域10（ブラジル）とアフガニスタン

動議＃12	ワールドボード
	2023–2026年度サイクルにおいて座席ワークグループを利用しないこと。 意図：座席情報と提案をまとめるより簡素なプロセスを試行する。

締切後、両地域から情報を収集しました。両地域とも情報を提供し、地域の議事録の最近のコピーをタイムリーに提出しました。
初期予備投票：105-7-11-3 85%の合意
動議は初期予備投票の結果と共に採択された

2025年中間WSCで可決された動議12に基づき、ワールドボードは資料を検討し、両地域がNAワールドサービスガイド（GWSNA）における新規リージョン議席付与基準を満たすと判断した。議席付与基準は本報告書の付録Dに記載されている。の基準が現在策定されている形での課題の一部は、それらが主に主観的であり、議席獲得の明確な資格としてたった一つだけ—リージョンとして形成され、議席要求資格を得る前に少なくとも3年間サービスを提供していること—を含んでいる点にある。
過去の議席報告では、会議が進化を続ける中で変化のプロセスに取り組む課題が提示されてきた一方で、この課題は、2018年WSCでゾーナルデリゲートの議席付与が決定されたことでさらに深刻化した。
　現状を踏まえ、ワールドボードは中立的立場を採り、議席付与に関するいかなる勧告も提出しないことが最善の対応策であると判断した。従来通り、ブラジル10地区およびアフガニスタン地区から提出された資料を会議の審議に供します。
過去の会議サイクルの経験から、これらの地区のいずれか、あるいは両方の議席設置を求める動議が会議参加者から提出されると予想されます。この点を踏まえ、各地区の議席設置を求める動議を会議承認トラック（CAT）資料に含めることを決定しました。これはワールドボードによるいずれかの地区への議席設置推奨ではなく、単に会議が意思決定を行うための仕組みです。これらの動議は、より効率的なプロセスを構築し、会議参加者にさらなる審議時間を与えるという精神で提出されるものです。これらの動議は、より効率的なプロセスを構築し、会議参加者が検討する時間を確保する精神で提示されています。これにより、会議参加者が下すあらゆる決定を支援するために必要な情報を提供する私たちの責任を果たせると考えています。
個々の理事として、申請内容に対する見解は異なりますが、現行の議席決定プロセスが非効率なシ

ステムである点、およびWSCがプロセスの改善方法についてより深く議論する必要がある点については合意しています。これは次期会議サイクルで取り組むべき議論です。
ボードとして、ワークグループを用いずに議席配置資料を審査する手法が今サイクルでは問題なく機能したことに合意し、WSCの「前進のためのセッション」において、これを恒常的な方針とする動議を提出する意向です。

B. 各地域からの議席配置申請書（完了分）
次の20ページには、2地域からの申請書が記載されています。

**ご注意：以下の質問の一部について正確な数値が不明でも、おおよその見積もりが可能な場合は、概算で構いません。

座席に関する質問（『NAにおけるワールドサービスガイド』より）

なぜ会議参加者になりたいのですか？
新たに構築されたサービス体制の中で、新たな経験を学び、共有するためです。会議への参加は、メンバーがグローバルな取り組みの一員であると感じられるよう促すため、メンバーの意欲向上にもつながります。
現在のWSCにおいて、あなたのNAコミュニティの声が十分に反映されていないとお考えですか？その場合、理由を教えてください。
私たちのNAコミュニティの声は届いていますが、議席を持ち直接参加することで新たな希望がもたらされるでしょう。
あなたのコミュニティは、フェローシップのグローバルな意思決定プロセスに積極的な貢献ができるだけの十分なNAサービス経験と回復経験を有しているとお考えですか？その場合、どのように貢献できるか説明してください。
当コミュニティは豊富な奉仕や回復の経験を持たないかもしれませんが、独自の課題に直面してきた遠隔地のNAコミュニティとして、意思決定プロセスに有意義な貢献をすることは可能です。
会議への参加は、地元のNAコミュニティにどのような利益をもたらしますか？
会議への参加は、私たちをグローバルなフェローシップと結びつけ、世界中の新たなアイデア、ベストプラクティス、成功した奉仕モデルに触れる機会を提供することで、地元のNAコミュニティに利益をもたらします。メンバーが世界的な運動の一員であることを実感させることで、刺激と動機付けをもたらします。会議で得た知識と経験は、リージョナルサービスの改善、回復活動の強化、そして独自の課題へのより効果的な対応に役立ちます。また、より広いNAコミュニティにおける帰属意識と目的意識を与えることで、会員のエンパワーメントにもつながります。
リージョンの座席プロセスに関するその他の情報またはコメントについて教えてください。
当地域は座席プロセス導入後間もないため、経験は蓄積中ですが、積極的な参加を通じて学び成長することを約束します。
議席決定プロセスに関する地域の経験について、その他の地域情報やコメントがあればお知らせください。
当地域は議席決定プロセスに比較的新しい参加地域であり、経験を重ねている段階ではありますが、積極的な参加を通じて学び成長することを約束します。このプロセス自体が私たちに内部構造の強化、地域間コミュニケーションの増進、より強固な結束の構築を促しました。また、グローバルなフェローシップの機能や各地域の声の重要性について深い理解をもたらしました。特に限られ

た資源や地理的な距離による課題は残るものの、これまでの経験は励みとなり、グローバルな意思決定プロセスへの継続的な関与を促しています。

貴リージョンはNAコミュニティ内の全てのグループ／ミーティングを代表していますか？

はい、当地域はコミュニティ内の全NAグループとミーティングを代表するよう最大限の努力を払っています。各グループとのオープンなコミュニケーション維持、地域サービスへの参加促進、そして意思決定プロセスにおいて全てのグループの声が確実に反映されるよう努めています。

リージョンの形成と歴史

リージョンは『世界サービスガイド』で推奨される州・地域・県・国境に相当する既定の地理的境界に沿っていますか？ そうでない場合、その理由は？

当地域は組織化されたサービスと明確な代表性を促進するため、県や国境などの既定の地理的境界にほぼ沿っています。ただし、人口分布、アクセス性、地域社会のニーズといった特有の事情により、NAグループへの支援を最適化するため境界を調整した例外が一部存在します。これらの調整は地理的課題があっても、全メンバーが適切な支援を受け、サービス活動が効果的に継続されることを保証するものです。

リージョンの一部が過去に別のリージョンに属していた場合、分割の理由は何でしたか？

いいえ、現在の地域は過去に他の地域の一部ではありませんでした。

分割プロセスを簡潔に説明してください。

当地域は分割されたことはありません。

リージョンはいつ形成されましたか？

当リージョンは2012年に形成されました。それ以来、強固なコミュニティ構築、サービス改善、地域内での回復支援に取り組んでいます。

リージョンがサービス提供を開始したのはいつですか？

当リージョンは2012年にサービス提供を開始しました。

リージョン内でNA回復ミーティングが開始されたのは何年ですか？

当リージョン初の回復ミーティングは2010年に開始されました。

直近3回のRSC会議の議事録/メモの写しを提出してください（可能であれば英語のみ）

あなたのリージョンに関する事実

地域の基本情報

地域名：アフガニスタン
リージョナル・デリゲート（RD）：Rahmat Ulla
オルタネート・デリゲート（AD）：Ahmad Suhrab
RDの任期：2年
エリア数（バーチャル含む）：3
・Herat Area
・Kabul Area
・Ghazni Area
グループ数：記載なし
週あたりのミーティング数（バーチャル含む）：100
週あたりのH&Iパネル数：12
WSC 2023以降のメンバー数の傾向：増加している

予算・財政状況

文献販売からの収入割合：0%
グループは地域サービスのため、資金の20%を一般基金に拠出している。
リージョナルの信頼された奉仕者は、移動費、タクシー代、食費を自己負担している。
現在の地域の資金残高は約100ドルである。
直近の会計年度にゾーン・フォーラムへ拠出した金額：300ドル

地域サービス体制

地域サービス体（RSC）は存在する。
対面でのRSC開催回数：年0回
オンラインでのRSC開催回数：年12回
地域管理体のオンライン会議回数：年4回
地域会議はZoomを使用したオンライン開催である。
地域オフィス：なし
地域コンベンション：あり

委員会・ワークグループ

以下の委員会・ワークグループが存在する。
・コンベンション／イベント
・フェローシップ・デベロップメント／アウトリーチ
・H&I
・人材（Human Resources）
・文献配布
・文献レビュー
・PR／PI
・プロジェクト型ワークグループ
・翻訳
・ウェブサイト
前回のWSC以降に新設されたもの：ウェブサイト
CBDM（合意形成型意思決定）：
・地域：使用していない
・エリア：使用していない

サービス提供とベストプラクティス

フェローシップ・デベロップメントおよびアウトリーチ活動は実施されている。
NAのサービス構造、トラディション、個人の回復に関するワークショップを行っている。
アウトリーチは、NAが十分に確立されていない地域や孤立したコミュニティとのつながりを目的としている。
正式なアウトリーチ委員会は存在しないが、小規模なチームが必要に応じて活動を担っている。
地域内でNAが存在しない場所についての話し合いは行われている。
研修およびメンタリングは、主にRSC会議での話し合いを通じて行われている。
計画は、地域のニーズに基づく基本的なサービス・プランニングである。
他サービス体との共有サービス：なし

コミュニケーションとテクノロジーの活用

WhatsAppグループおよびTelegramチャンネルの活用により、エリア間およびメンバー間のコミュニケーションが改善した。
定期的なオンライン会議により、特にCOVID-19期間中もつながりと連携が維持された。
Zoomなどのバーチャル会議プラットフォームの導入により参加率が向上した。
SNSやメッセージアプリによる告知・情報共有、デジタルツールによる資料共有と調整により、業務効率が向上している。

PR／PI活動

以下の活動を行っている。
・コミュニティセンター、クリニック、病院での情報パンフレット配布
・地域イベントや健康フェアでの情報ブース設置
・SNSを通じた情報発信と回復ストーリーの共有
・依存症とNAについての啓発ワークショップの実施
州・全国規模のカンファレンスへの参加：年1〜2回

フォンライン／ヘルプライン

NAヘルプラインが存在する。
ボランティアが対応し、ミーティング情報や支援につなげている。

ウェブサイト

地域ウェブサイト：あり
URL：https://naafg.org/?p=3078
ミーティング情報は更新されている。

WSC関連の意思決定

CARワークショップの実施：記載なし
CARの動議に対する良心形成の方法は以下の選択肢を認識している。
・投票集計
・コミュニティ集会での討議と投票
・デリゲートの裁量
CAT資料に対する良心形成の取り組み：記載なし

革新と課題

過去会議サイクルにおいて、貴地域で最も関心と議論を集めた主題は何でしたか？
過去会議サイクルにおいて、当地域で最も関心と議論を集めた主題は、孤立したメンバーやコミュニティと繋がるための新たなアウトリーチ戦略の開発と実施でした。多くのメンバーが、特に仮想プラットフォームを通じて、NAの存在感を拡大し、回復リソースへのアクセスを改善する方法についての議論に積極的に参加しました。
WSC 2023以降、貴リージョンが直面した最も重大な課題について説明してください
文献不足と、フェローシップの公式登録の欠如です。現在、私たちの活動は単一の書簡の権限のもとで実施されています。もう一つの重大な問題は、信頼できる奉仕者の不足です。さらに、政府の

政策と規制により、特定のサービス委員会を活性化することができません。

WSC 2023以降、貴地域が経験した主な成果や成功事例について

WSC 2023以降、当地域は顕著な成果を上げています。回復ミーティング数の増加と会員の積極的な参加拡大が主な達成事項です。さらに、オンラインミーティング開催のための技術的活用が効果的で、会員間のつながりを維持し、より多くの人々がミーティングに参加できるようになりました。さらに、他サービス団体との協力や教育ワークショップの開催がフェローシップの発展と強化に寄与しています。イラン地域とは経験を交換しており、同地域からは四半期ごとに『Behboodi』誌を200部無償提供いただいています。またマシュハド・デー地域からは四半期ごとに『Rah Mishtar』誌を100部無償提供いただいています。

協会の活動を現政権から切り離すこと。公式ウェブサイトの立ち上げ。
昨年、イラン国内から多くのアフガン人が国外退去となったため、WhatsAppプラットフォーム経由で2,000件以上の問い合わせがありました。当サイトに掲載し、支援希望者を集会へ誘導しました。第二の大きな成果は、Zoomプラットフォーム上での女性向け集会の開始です。現行の政策により、女性向け対面集会を開催できませんでした。当サイトに掲載し、支援者の方々をミーティングへご案内しました。第二の大きな成果は、女性向けミーティングをZoomプラットフォームで開始したことです。現行の政策により女性向け対面ミーティングは不可能でしたが、このオンラインミーティングにはアフガニスタン国内から20名以上の女性が参加しています。

他の会議参加者へ追加で伝えたい情報は？

アフガニスタンは辺境で未開発の国であり、我々の若いNAコミュニティは多くの課題に直面しています。ワールドサービスの支援を得て、NAのメッセージをアフガニスタン全土に広められることを願っています。

WSC 2026 座席リクエストフォーム
地域10 ブラジル

**ご注意：以下の質問の一部について正確な数値が不明でも、おおよその見積もりが可能な場合は、概算で構いません。

座席に関する質問（『NAにおける世界サービスガイド』より）

なぜ会議参加者になりたいのですか？

WSCをNAのグローバルサービス構造の心臓部と捉えるならば、各地域の参加は、この心臓が完全かつ健全に鼓動するために不可欠です。地域10ブラジルは、会議の参加者となり、NA世界サービスおよび世界的なフェローシップに貢献するために必要な経験と発展を有していると確信しています。さらに、当地域はブラジル国内においてマトグロッソ・ド・スル州やサンパウロ州を含む広大な地理的領域をカバーしています。設立以来、当地域は境界を尊重しつつ地域内での奉仕に尽力し、隣接地域との良好な関係を維持してきました。

現在のWSCにおいて、貴NAコミュニティの声が十分に反映されていないとお考えですか？その理由は何ですか？

ブラジル第10地区のフェローシップは、NAのグローバルな課題に対して大きな関心と関与を示しています。私たちはワールドサービス会議の議題を積極的に追跡し、議席を持たない地区が利用できる手段、すなわちゾーナル代表を通じたコミュニケーションと代表権によって参加を図っています。これは私たちが繋がり、貢献を熱望していることを示しています。

しかし、ゾーナル代表を通じた代表は、重要な接点ではあっても、独自の座を持つ地域と同等の明瞭さと影響力で、ブラジル第10地区の独自かつ詳細な声を伝えることはできません。マトグロッソ・ド・スル州や著しい成長を遂げているサンパウロ州内陸部における地域サービスの特性、克服した固有の課題、得られた教訓は、より広範なレベルで提示されると希薄化または一般化される可能性がある重要な情報です。

したがって、この地域の声は世界サービスには届くものの、決定を十分に裏付けるために必要な力強さと特異性を伴って、世界サービス会議で直接聞かれることはありません。WSCに独自の議席を持つことは、ブラジル第10地区の豊かで進化し続ける経験が、私たちのグローバルなフェローシップの審議に直接的かつ明確に貢献することを保証するために不可欠です。

貴コミュニティは、フェローシップのグローバルな意思決定プロセスに積極的な貢献ができるだけの十分なNAサービスと回復の経験を有しているとお考えですか？ もしそうなら、その理由を説明してください。

はい、私たちはブラジル第10地区のNAコミュニティが、世界サービス会議の意思決定プロセスに建設的な貢献をするために必要なこの確信は、クリーン期間を持ち、誠実かつ一貫して奉仕活動に専念するメンバーが存在するという事実に基づいています。彼らはグループ,
エリア、地域小委員会における日々の実践を通じて、回復と奉仕の原則を適用する方法を学んできました。地域会議の開催、小委員会での活動、地域・ローカルイベントの実施といったこれらの奉仕活動は、NAのメッセージを伝えることの難しさと喜びについて実践的な学びを与えてくれました。当リージョンが経験した成長は、回復を必要とするより多くの依存症者に効果的に届いている証左です。

私たちがカンファレンスで共有したいのは、まさにこの「効果がある：その方法と理由」というシンプルな実体験です。私たちが学んだ教訓を共有すると同時に、世界の他の地域からのメンバーのサービス経験を注意深く聞くことで、より広範なグループコンシャスへの貢献と、常に原則に導かれたNAフェローシップ全体をより良く支える決定が可能になると信じています。

2021年から2023年にかけて、私たちの地域では、地域サブ委員会（ASCs）が6から8に、グループが55から88に、週次ミーティング数が187から304に増加しました。

2021年から現在までに、私たちのASCは6から8に、グループは55から88に、週次ミーティング数は187から304へと増加しました。

エリアミーティングの運営、委員会での活動、リージョンサービスフォーラム（フェローシップが集結しサービス課題を議論する場）やフェローシップが集い奉仕課題について議論した「地域奉仕フォーラム」、そして回復と奉仕に携わる250名以上のメンバーを結集した「地域大会（オリーミア/SP）」は、私たちのコミュニティの活力を真に示すものでした。これらの活動は、NAのメッセージを伝えることの困難さと喜びについて、実践的な教訓を与えてくれました。

会議への参加が地元のNAコミュニティにどのような利益をもたらすか？

会議への参加は、地域が全体に貢献することだけでなく、全体が地域とその構成部分をいかに強化するかという点にもあります。ブラジル地域10にとって、WSCに議席を持つことは次のことを意味します：

1. 直接かつ最新の情報へのアクセス：その代表者は、世界レベルで承認された、または開発中の議論、決定、新資料を地域総会、ASC、グループに伝える主要なチャネルとなります。これにより、地域10ブラジルにおけるフェローシップは、新たな文献からサービス方針・リソースに至るまで、NAの世界的な動向を常に把握できます。
2. グローバルな経験の共有：この会議は、異なる文化や現実から生まれたサービス経験のるつぼです。ブラジル地域10の代表者は他の地域が共通の課題（成長、アウトリーチ、遠隔地でのサービスなど）に対して見出した解決策に耳を傾け、学ぶことができる。これらの教訓は適応され、地域内でH&I、PR、アウトリーチ、ヘルプラインサービス、グループ支援の効果を高めるために適用される。
3. グローバルな帰属意識の強化：会議への積極的な参加は地域10ブラジルコミュニティを世界的なフェローシップと確かな形で結びつけます。自地域が代表され貢献していることを知ることは地域のメンバーや信頼される奉仕者たちの自信と関与を促し彼らがより大きな存在の一部であることを再確認させます。これは地域内のあらゆるレベルでの奉仕活動に活力を与えるでしょう。
4. グローバルな良心との整合性：WSCの審議と集団的良心に参加することで、ブラジル第10地区はグローバルな決定の背景にある「理由」を深く理解します。これにより、地域・ローカルレベルでの世界サービス指針の実施と整合が促進され、NAにおける目的の統一が育まれます。本質的に得られる利益は、知識、実証された実践的経験、強化されたリソース、そして強化されたグローバルな結束感です。これら全ては最終的に、地域10ブラジル内のグループが私たちの主要な目的をより効果的に達成するのを支援することを目指しています。その地域でまだ苦しんでいる依存症者に回復のメッセージを届けることです。地域の選出プロセスに関するその他の情報やコメントがあればお知らせください。

   当リージョンには、かつてブラジルHOW地域で奉仕し、WSC議席選出プロセスに関わったメンバーが在籍しており、GWSNAおよびWSCで定められた手続きに関して、現在のボードやその他の地域サーバントへ貴重な経験をもたらしています。さらに、当地域のRDは2023年の直近WSCに出席しました。要約すると、当地域は意欲あるメンバーで構成される奉仕組織の一部です。

   貴リージョンはNAコミュニティ内の全グループ／ミーティングを代表していますか？

   はい

リージョンの形成と歴史

地域は『世界サービスガイド』で推奨される州・地域・県・国家境界に相当する既定の地理的境界

に準拠していますか？準拠していない場合、その理由は？
はい。当地域はマトグロッソ・ド・スル州全域をカバーし、関係機関・当局との広報活動を実施しています。サンパウロ州内陸部を包含する地域部分は州委員会の一部として、地域ハウ・ブラジルおよび地域グランデ・サンパウロと連帯し、広報活動を展開しています。
地域の一部が過去に他地域に属していた場合、分割理由を簡潔に説明してください。ブラジル第10地区の存在は、HOWブラジル地区が主導したプロジェクトの結果である。目的は近隣地域で構成される「核」を創設することだった。この中間組織は、近隣地域の連携強化による取り組みの共有と地域レベルでのNA発展を図ると同時に、地域総会への出席に必要な代表者の移動距離を短縮するより経済的なコミュニケーション手段としての役割も担った。
　ブラジルの多くの地域はヌクレウス計画から生まれましたが、地域10ブラジルは二つのヌクレウスの統合から初めて誕生した地域です。地域形成を担当した作業グループは実現可能性調査を実施し、地域HOWブラジルおよび関心のある地域に提示したところ、地域10ブラジルの形成に対して全面的な支持を得ました。
貴リージョンはいつ形成されましたか？
2021年10月16日です。

リージョンはいつからサービス運営を開始しましたか？
地域結成時より、またそれ以前の核プロジェクト段階から。
地域でNA回復ミーティングが開始されたのは何年ですか？
1994年。
直近3回のRSC会議の議事録/メモの写しを提出してください（可能であれば英語のみ）。
直近3回のRSC会議の議事録/メモの写しを添付しました。
直近3回の議事録（英語版）を添付しました。

リージョンに関する基本情報
地域名
10ブラジル
地域代表者名
ジョナス・L
代理代表者名
オタヴィオ
RDの任期は？
3年
地域内のエリア数（仮想エリアを含む）
8エリア
地域内のグループ数（仮想のみ開催グループを含む）
89グループ
地域内で週に開催されるミーティング数（バーチャルミーティングを含む）
週304ミーティング
地域内で週に開催されるH&Iパネル数（RSCだけでなく全サービス機関が主催するパネル、およびバーチャル開催分も含めて集計）
週平均12回のH&Iパネルを開催しています。

WSC 2023以降、地域の会員数は増加傾向、減少傾向、または横ばいと思われますか？
増加傾向

予算

RSCの年間予算のうち、グループおよびエリアからの献金が占める割合は？
40%
大会やイベントからの収入の割合は？
60%
文献販売からの割合は？
0%
前会計年度における地域からのゾーナルフォーラムへの総拠出額はいくらでしたか？R$ 4,800.00
（予算案で承認された月次拠出額：R$ 400.00）

リージョンのサービス体制

RSCの対面会議頻度は？（年次会議回数）
年2回
RSCはオンラインでどのくらいの頻度で会合しますか？（年間会合回数）
一般サービス事項について年2回
全国・WS事項について代表者及びRCMと年2回
リージョンボディはオンラインでどのくらいの頻度で会合しますか？（年間会合回数）
年4回
RSCが対面で会合する場合、毎回同じ場所で行われますか？ そうでない場合、理由を説明してください。
はい
リージョン事務所は設置されていますか？
はい
リージョナルコンベンションは開催されていますか？（オンラインイベントも含む）
はい。2024年にはサンパウロ州オリンピア市で地域大会を開催し、当地域全エリアから250名に加え、ブラジル国内他地域およびABNAからのメンバーが参加しました。リージョン委員会および各エリアの全メンバーが、イベントの宣伝、販促物の販売、登録管理に携わりました。大会は成功を収め、約40,000レアルの正味黒字を達成し、これはリージョンのサービス活動を支援するための基金に振り替えられました。
対面開催の場合、参加者は
増加中
RSCにはどのような委員会やワークグループがありますか？
☑ コンベンション/イベント ☑ FD/アウトリーチ ☑ H&I☑ 電話相談☑ PR/PI☑ プロジェクトベースワークグループ☑ リージョナルサービスオフィス ☑ ウェブサイト
前回のWSC以降に新設されたワークグループ/委員会はありますか？ある場合、どれですか？
いいえ
RSCでは合意形成型意思決定（CBDM）を用いて決定を行っていますか？
はい
管轄区域内でCBDMによる意思決定を実施している地域はありますか？
はい

リージョンにおける運用状況についてのコメント
審議が必要な新規提案の冒頭で、ファシリテーターが当該事項への合意形成の有無を確認します。少数派の意見に耳を傾けることを重視しているため、意見の相違がある場合に議論を開始します。

サービス提供とベストプラクティス

貴リージョン内でフェローシップ開発（FD）またはアウトリーチ活動は提供されていますか？
はい
提供されている場合、これらの取り組みについて説明してください。FDまたはアウトリーチワークグループ／委員会がある場合は、その内容も説明してください。
当リージョンには活発なアウトリーチ小委員会があり、全エリアが参加しています。各エリアの現状と課題を把握し、最も効果的な支援を提供するためです。リージョンアウトリーチチームは、エリア小委員会との会議に参加し支援を提供しています。また、リージョンアクションフォーラムにも参加し、リージョンレベルでのフェローシップ強化に貢献しています。
NAが存在しない地域について、貴リージョンで議論は行われていますか？
はい。まだNAグループが存在しない、あるいはごく少数しか存在しない都市でのNA発展方法について、継続的に議論しています。
　ヘルプラインデータとNA未進出都市の統計に基づくマッピング活動を通じ、直接的なアウトリーチやスポンサーシップ活動が実施され、新たなグループの開設と当該地域でのNA確立を支援しています。その一例が、2024年にサンパウロ州プレジデンテ・プルデンテ市で開催されたリージョナルアクションフォーラムです。同州ではNAグループが少数でしたが、このフォーラムが地域のフェローシップ成長を大きく後押ししました。
貴リージョンおよび／またはそのエリアでは、どのような研修やメンタリング活動が行われていますか？
PR研修、H&I研修、132ヘルプライン研修、アウトリーチ研修、WSC議題討論トピック（IDT）に関するワークショップ。各地域総会では、グループおよび小委員会の発展促進を目的としたテーマ別ワークショップを開催しています。これには、小グループでの議論や、各エリアが直面する課題への解決策の策定が含まれます。
貴リージョンおよびそのエリアではどのような計画策定を利用していますか？
RSCとASC間のサイクルに沿った地域計画を採用し、サイクルごとの明確なミーティングカレンダーと財政予算を設定しています。この計画にはリージョンサービスフォーラムやリージョナルコンベンションといった全てのサービス活動およびリージョナルイベントが含まれます。さらに、まだ苦しんでいる依存症者にメッセージをより効果的に届けるため、各エリアがイベントやサービス活動を計画する支援にも努めています。
要約すると、計画策定は以下のステップに重点を置いています：
・ワールドレベル・ナショナルレベルの活動と同期したカレンダー
・年間予算案
・ABNAへの貢献目標
貴地域またはそのエリアは、他のサービス機関と共有サービスを実施していますか？実施している場合、その取り組みについて説明してください。
132ヘルプライン（発信者無料の電話番号）は、ブラジルの複数地域にサービスを提供する電話回線であり、当地域もこの取り組みに参加しています。また、州PR委員会にも、ブラジルHOW地域およびグランデ・サンパウロ地域と共に参加しています。当地域はブラジル全土の他地域と共に全国H&I会議に参加しています。また発展途上地域におけるフェローシップ発展支援のため、他地域で

開催される様々なローカル・アクション・フォーラムにも参加しています。さらに、当地域メンバーはABNA内での全国レベルでの活動にも従事しています。

地域および/またはそのエリアにおいて、コミュニケーション戦略で特に成功した事例があれば共有してください。

はい、地域とエリア間のコミュニケーション戦略において複数の成功事例があります。サービスの進捗を確認し、完了した活動に関する説明責任報告書を提出するため、定期的な会議の維持に努めています。意思決定プロセスにおいて常に全ての意見を傾聴することが、私たちの重要な優先事項です。地域信頼役とエリアを代表する地域委員会メンバー（RCM）間のコミュニケーションチャネルを開放し続けることで、第八の概念を実践しています。CAR（カンファレンス・アジェンダ・レポート）提示ワークショップでは、全ての動議を詳細に説明し、エリアからの投票を明確かつ効果的に集計するよう努めています。さらに、PR、H&I、アウトリーチ、ヘルプラインサービスを適切に遂行するために必要な資材やリソースがエリアに常に備わっていることを確保するよう取り組んでいます。

もし、地域やエリア内でテクノロジーを新たな方法で活用し、特に成功した事例があれば、ぜひ共有してください。

はい、コミュニケーションとサービスの効率性を向上させるために、特定のテクノロジーを効果的に活用することに成功しています。WhatsAppのコミュニケーショングループを活用し、あらゆるレベルの奉仕活動における信頼される奉仕者同士の迅速かつ直接的な連絡を促進しています。さらに、年間Zoomサブスクリプションを維持し、地域内の地理的距離に関わらず、定期的に仮想会議を開催し効果的なコミュニケーションを確保しています。また、全ての会議議事録と報告書を全国ウェブサイト（https://abna.na.org.br/csr-10-brasil）で公開しています。

貴リージョンで実施されている広報活動（PR/PI）の種類について説明してください。

当リージョンでは広報活動（PR）が多様化しており、可能な限り効果的に調整するよう努めています。定期的に、地域PR活動を支援するため、パンフレット、ポスター、バナー、ステッカー、ベストなどの広報資料をエリアに提供しています。各エリアには実施活動と資材の使用状況について報告を求め、プロセスの監視と支援を行っています。また、全デザインの一貫性を保ち統一されたコミュニケーションを確保するためのビジュアルアイデンティティマニュアルを整備しています。

2021年と2023年には地域サービスフォーラムを開催し、地域小委員会集会（旧称：地域アクションフォーラム）ではヘルプラインハンドブックなどのサービスマニュアル研究を推進し、サービス強化を図りました。特定の自治体では現地保健局への働きかけなど、具体的なプロジェクトも展開し、地域の実情把握に努めています。アクションフォーラム）を開催し、ヘルプラインハンドブックなどのサービスマニュアルの学習を促進し、サービス強化を図っています。特定の自治体では、地域の実情をより深く理解するために、地域の保健部門に働きかけ、その後、フォローアップをエリアに委任するなどの具体的なプロジェクトを展開しています。また、常に地域の小委員会の支援を得て、様々な分野の当局との接触を図っています。また、常に地域小委員会の支援のもと、様々な分野の当局者との接触を図っています。全エリアが年次広報週間（PR Week）に積極的に参加し、広報説明会、フォーラムや保健局でのプレゼンテーション、資料配布、ポスター掲示など多様な活動を企画しています。さらに、近隣地域（HOWおよびグランデ・サンパウロ）と共に州全体の広報委員会に参加し、州レベルのサービス活動で協力しています。

VID-20240629-WA0071.mp4 - Google Drive

貴リージョンおよびエリアのPR/PI委員会は、年間でいくつの州全体／全国規模の会議に参加／出展していますか？

以下は、専門家が継続的に交流し、ナルコティクス・アノニマスと社会間の協力体験が共有された

公開会議の時系列履歴です：
以下は、継続的な活発な交流を持つ専門家が関与した公開会議の年表です。
ここでは、ナルコティクス・アノニマスと社会との協力経験が共有されました：
・地域行動フォーラム（カンポ・グランデ - 2018年）*
・地域行動フォーラム（サントス - 2019年）*
・地域行動フォーラム（ソリッソ/MT - 2020年）*
・地域行動フォーラム（カンピーナス - 2021年）*
・地域行動フォーラム（ジュンディアイ/SP - 2021年）*
・地域行動フォーラム（サントス/SP - 2022年）
・全国サービス会議（カンポグランデ/MS - 2024年）
・地域行動フォーラム（ソロカバ/SP - 2024年）
・ブラジル大会（アラクルス/ES - 2025）
・ 中部ブラジルフォーラム（カルダスノバス/GO - 2025）
・公開会議 – パンタナールASC（カンポグランデ/MS - 2025）
2025年については、この種の会議を6回開催する計画を進めています。
*斜体表記のイベントは、ブラジル地域10の設立以前に広報メンバーが実施した活動です。
これらは地域のサービス団体によって組織されました。注1：2020年以降、継続的に活動している専門家を交えたハイブリッド形式の交流会を年1回開催しています。これらのイベントは、NAと社会との協力に関する経験を共有するものであり、ABNA（ブラジル・ナルコティコス・アノニマス協会）の仮想プラットフォームを通じて開催されています。
注2：受動的関与の専門家を伴う公開プレゼンテーション（質疑応答形式）はより頻繁に行われ、年間最大100回に達します。
貴地域にはNAの電話相談ラインやヘルプラインはありますか？ある場合は、これらの取り組みについてご説明ください。
はい、当地域はブラジルのNA全国ヘルプラインサービスに参加しており、フリーダイヤル132番で運営されています。当地域内では、このヘルプラインの分室が5つのエリアサービス委員会（ASC）に設置されています。これらの拠点では、地域小委員会のボランティアメンバー（電話対応者）が、当団体に連絡をくれた方々からの電話に対応しています。また、全国ヘルプライン機構に対し、この重要なサービスを継続するために、毎月400レアルの寄付を行っています。
リージョンウェブサイトはありますか？ ある場合はURLを記載してください
はい。ABNAウェブサイト（www.na.org.br）ブラジル第10地区専用の独立したウェブサイトはありませんが、ブラジルNA協会（ABNA）が運営する全国ウェブサイトを利用しています。
このメインサイト「Narcotics Anonymous Brazil ABNA Website (www.na.org.br)」は国内のNAコミュニティ全体にサービスを提供しています。その中に、ブラジル第10地区に関連するサービスと情報を掲載した専用ページがあり、https://abna.na.org.br/csr-10-brasil からアクセスできます。

WSC問題に関する意思決定
貴地域はCARワークショップを開催しましたか？開催した場合、その取り組み（例：ワークショップ数、平均参加者数）を説明してください。
はい。当地域ではCAR（会議議題報告書）を議論するワークショップを開催しています。2023年WSCに向けては対面式ワークショップを実施しました。目的はCAR動議の説明、全エリアサービス委員会（ASC）の参加促進、地域グループコンシャスの構築、動議への投票でした。

2023年WSCに向けては対面式ワークショップを開催しました。目的はCAR動議の説明、全エリアサービス委員会（ASC）の参加促進、地域グループ良心の構築、動議への投票でした。2025年WSC中間会議に向けてはオンラインワークショップを開催しました。そのセッションでは、動議と計画会議を提示し、オンライン会議中に動議への投票を行いました。これらのワークショップは、WSCの議論と決定において当地域の意見が考慮されるよう確保するための取り組みです。このセッションでは、動議と計画セッションを提示し、オンライン会議中に動議の投票を行いました。これらのワークショップは、WSCの議論と決定において当地域の声が考慮されるよう確保するための取り組みです。CARの動議に関する合意形成には主に3つの方法があることを認識しています：

・各動議ごとの投票集計
・動議を議論・投票するコミュニティ集会での採決
・代表者の裁量に委ねる

貴コミュニティではCARの合意形成にどの方法を採用していますか？
（1つだけ選択してください。複数採用の場合は主要方法を明記し、「その他」で詳細を記入）

o 投票集計—エリアごとに1票☑ 投票集計—グループごとに1票／メンバーごとに1票
o その他集計方法（説明を記入）
☑ 地域ワークショップ／総会におけるGSRによる議論と投票
o RSC会議におけるRCMによる議論と投票
o その他のコミュニティ集会（説明を記入）
o RD／ADへの決定委任
o その他（説明を記入）

貴地域では、動議以外のCAR部分について議論していますか？
はい：
その取り組みについて記述してください。
はい、動議だけでなくCARの全部分を学ぶことを重視しています。私たちは確信しています会議議題報告書（CAR）は、世界的なフェローシップとのつながりにおいて極めて豊かで不可欠な文書であると意思決定部分（動議）のみに研究を限定することは、学びと成長の貴重な機会を逃すことを意味します。報告書、プロジェクト進捗、財務情報、ワールドサービスの課題と成功に関する議論——これら全てが、NAのために世界的に行われている活動の全体像を私たちに提供してくれます。

　この文脈を理解することで、より情報に基づいたグループ・コンシャスネスを育み、決定事項の含意をより深く把握し、メッセージを伝える集団的努力の一員であることを真に実感できるのです。だからこそ私たちは、グループとこの全ての情報を共有し、誰もがワールド・サービス全体と繋がる機会を得られるようにしているのです。

あなたの地域では、CAT資料（承認トラック）に関するコンシャスネスを集める取り組みを行っていますか？ はいという場合、その取り組みについて説明してください。
はい、当地域ではCAT（会議承認トラック）資料に関するコンシャンスの収集に努めています。CARと同様に、CAT資料についても各エリアのコンシャンスを集約するよう努めています。詳細な説明を心がけており、このプロセスは文献翻訳委員会が提供する翻訳資料によって支えられています。また、これらの資料に関する研究や議論を支援するため、CAR/CATの翻訳版パワーポイントプレゼンテーションも受け取り活用しています。翻訳委員会が提供する翻訳文書によって支援されています。また、CAR/CATの翻訳版パワーポイントプレゼンテーションを受け取り、これらの資料に関する研究と議論を支援するために活用しています。

革新と課題

過去会議サイクルにおいて、貴リージョンで最も関心と議論を集めた主題は何でしたか？

前回の会議サイクルにおいて、当地域で最も関心と議論を集めた主題は、「破壊的・略奪的行動」に関する問題討論トピック（IDT）と「NA文献におけるジェンダーニュートラルかつ包括的な言語」でした。これらのテーマは、メンバーとサービス委員会の強い関心を呼び起こしました。

WSC 2023以降、貴リージョンが直面した最も重大な課題について説明してください。

「行動」と「NA文献におけるジェンダーニュートラルかつ包括的な言語」に関するIDTでした。これらのテーマはメンバーやサービス委員会を強く巻き込みました。

WSC 2023以降、貴リージョンが直面した最も重大な課題を説明してください。WSC 2023以降、当リージョンが直面した最も重大な課題は、間違いなく2024年にマトグロッソ・ド・スル州カンポグランデで開催されたナルコティクス・アノニマス第6回全国サービス会議（CNS）の主催でした。この規模のイベントを主催することは、ブラジル各地や他国からも数百名のメンバーが集まるため、リージョンサービス組織全体による膨大な計画、ロジスティクス、そして献身を必要としました。ワールドサービス（World Services）の参加が確定していたことも責任を重くしました。これには世界理事会（World Board）の代表者や、ラテンアメリカ地域フォーラム（Latin American Zonal Forum, FZLA）の代表者も含まれていました。この課題は成功裏に達成され、全国レベルでのNAサービスの発展に寄与し、世界的なフェローシップとの結びつきを強化したと私たちは考えています。（FZLA）の代表者を含む世界サービス関係者の参加が確定したことで、さらに重みを増しました。この挑戦は成功裏に達成され、国内レベルでのNAサービスの発展に貢献するとともに、世界的なフェローシップとの絆を強化したと確信しています。

WSC 2023以降、貴地域が経験した主な成果や成功事例についてご説明ください。

予算案を達成できました。

活動カレンダーを完全に実行しました。

2025年3月の第2回ブラジルナルコティクス・アノニマス大会を含む、全ての国内イベントに代表を派遣しました。

ブラジル全地域および当地域と国境を接する隣国（ボリビア、パラグアイ）との連絡体制を確立しました。

他の会議参加者に共有したい追加情報はありますか？

本報告書では、ブラジル第10地区の発展、活動、そして奉仕の精神について正確な概観を示すよう努めてまいりました。しかしながら、2023年世界サービス会議以降（そして実際には当地区発足以来）、主要目的に焦点を当てたタスク、地域イニシアチブ、サービスミーティング、アウトリーチ活動、行動の数は膨大であり、本報告書でそれらを全て網羅的に詳述することは不可能であることを強調しておく必要があります。したがって、ワールドサービス会議の参加者に対し、必要な追加説明については全面的に対応いたします。当リージョンの歩みと、WSCの正会員としての奉仕準備状況を理解いただくための質問にお答えし、より詳細な情報提供を行う用意があります。

ジョナス・L - RD　オタヴィオ – AD

C. 議席に関する背景と最近の会議決定

　WSCにおける議席問題は、長年にわたり歴代の会議が直面してきた課題である。NAという共同体としての成功の一つの結果として、NAが成長するにつれ、会議は規模が拡大し、費用も増加し続け、その持続可能性と有効性が脅かされるまでに至った。

　新たな会議参加者の認定基準は、2000年により広範な会議方針変更の一環として制定された。これには2年ごとの会議サイクルやWSCによる代議員出席費用の負担も含まれる。WSCが地域代議員

の費用を負担するなら、会議参加者に対する何らかの基準を設ける必要があるという考えに基づくものだった。しかしこの方針はすぐに効果がないことが明らかになった。私たちのフェローシップの多様性に適切に対処できる方針を策定しようとした結果、客観的な基準はほとんど設けられませんでした。座席配置プロセスは、会議側と座席を申請する地域双方のニーズを十分に考慮していないように見受けられます。効果的な方針が確立されていない状況下で、WSCの規模と費用を考慮する必要性が高まる一方で、新たなNAコミュニティを会議に迎え続ける必要性も生じているため、座席配置に関する会議の決定はますます感情的かつ困難なものとなっています。

以下に、2008年会議以降の座席配置に関連する具体的な決定事項を記載します。

WSC 2008は、声による採決で以下の動議を可決し、地域分割に起因する地域の審議を2回の会議サイクルにわたり一時停止することを決定した。その動議は以下の通りである：

現在の「新規会議参加者認定基準」

（『NA世界サービスガイド』より）を、WSC 2012まで一時停止する。

世界理事会は、2010年および2012年の会議において、会議参加コミュニティの分割に起因しない地域に関する勧告を継続して行う。すべての会議動議は採択されたWSC終了時に発効するため、このモラトリアムはWSC 2008終了時に発効した。

エジプト、エルサルバドル、ネパール、ニカラグア、ポーランド、ノースカロライナ、南ブラジルという7地域がWSC 2008で議席を獲得した。

WSC 2010はモラトリアムへの以下の修正案を検討したが、起立投票により否決された

賛成80-反対40-棄権1-出席（投票せず）0。（修正案可決には投票権を持つメンバーの3分の2以上の賛成、本ケースでは81票が必要であった）

2008年WSCで採択されたモラトリアム条件を以下のように改訂する：NA世界サービスガイドに記載の現行「新規カンファレンス参加者認定基準」について、2012年WSCまでモラトリアムを適用する。世界理事会は、2010年及び2012年に、既存の会議参加地域分割から生じなかった地域について、引き続き会議への勧告を行う。WSC 2012では、いかなる地域も議席付与の対象としない。

意図：会議がWSC議席及び関連方針を議論する時間を確保し、この単一会議のみを対象とする新規地域の議席要求という追加的検討事項を排除するため。

2010年WSCでは2地域（リトアニア、デンマーク）が議席を獲得した。

WSC 2012では議席に関する以下の質問を検討した：

WSC 2014において議席獲得を検討する地域を一切認めないというWBの勧告を支持しますか？

仮投票結果：賛成41、反対55

現行のモラトリアム（議席獲得停止）の精神を1サイクル継続する？（分裂によって生じた地域は考慮しない）

仮投票結果：賛成73、反対20

2012年会議議題報告書からの本決議案は可決されました：

決議案8：原則承認：州／国家／省の境界線をワールドサービスカンファレンスにおける議席配分検討の主要基準とする。

採択（起立投票）：賛成60・反対46・棄権1・出席未投票3

2012年WSCでは地域代表は選出されなかった。

2014年会議議題報告書におけるワールドボードの二つの動議は、WSCの費用と規模を抑制する手段として、補欠代表の参加中止と全選出地域への代表者自動資金提供の停止を提案した。これらの動議はいずれも支持されなかった。

2014年会議では1地域（キスキアナ）が議席を獲得した。
2016年WSCでは3地域（グランデ・サンパウロ、HOW、リオデジャネイロ）が議席を獲得した。
2018年WSCでは3地域（メキシコ・オクシデンテ、オランダ、ウクライナ）が議席を獲得した。
本会議ではさらに、地域代表と同等の投票権・資金配分権を有するゾーン代表を設置する以下の動議が可決された：
「WSCに議席を持たないゾーンに属する2つ以上の地域／コミュニティから構成されるゾーンフォーラムは、当該地域／コミュニティを代表するため、世界サービス会議にゾーン代表1名を派遣することを選択できる」
趣旨：世界中に存在する多数の議席を持たないNAコミュニティを世界サービス会議で代表するため。
意図：世界中に存在する多数の議席を持たないNAコミュニティを世界サービス会議で代表するため。
強い支持：賛成85、反対26、棄権1、出席（投票せず）2
2020年WSCでは2地域が議席を獲得した——ミナス地域と北西ロシア地域。
2020年大会では新たなゾーンの議席付与を一時停止する以下の動議も可決された——2018年WSC以降に形成されたゾーンからの議席付与要請は、ゾーン議席付与基準またはプロセスが確立されるまで考慮しない。
2020年大会では新たなゾーンの議席付与を一時停止する本動議も可決された：
WSC2018以降に形成されたゾーンからの議席付与要請を、WSCがゾーン議席付与基準またはプロセスを確立するまで検討しないことで
ゾーン議席付与を一時停止する。
意図：ゾーン議席付与に関するさらなる決定を行う前に、WSCがゾーンを会議参加者として経験する機会を与えること。
強い支持：98-20-8-3（賛成-反対-棄権-出席したが投票せず）
強い支持：98-20-8-3（賛成-反対-棄権-出席したが投票せず）
2023年WSCでは5地域が議席を獲得：ブラジル中部、イラン地域1、ブラジル北東部、リオグランデ・ド・スル（ブラジル）、タイ。
2025年暫定WSCは本動議を可決：
2023-2026サイクルにおいて議席ワークグループを利用しないこと。
意図：議席情報と推薦案の集約プロセスを簡素化すること。
合意支持：105-7-11-3（賛成-反対-棄権-出席・投票せず）

D. WSCにおける新規地域議席付与基準

本節の情報は『NA世界サービスガイド』33-34ページより抜粋。

　WSC 2008が本会議方針をWSC 2012以降まで凍結することを承認した際、当該方針は本ガイドから削除された。WSC 2012では、モラトリアム精神をもう1サイクル（WSC 2014まで）継続することを支持（賛成73、反対20）する暫定投票が行われた。2014年および2016年の会議では、WSCの将来に焦点を当てた一連の議論が行われたものの、議席政策に関する正式な決定は行われなかった。

　WSC 2018において、WSCで議席を持たない2つ以上の地域からなるゾーンのゾーン代表を議席に就ける決定がなされたため、ゾーン認定の基準を策定する必要が生じた。WSC 2020は「WSC 2018以降に形成されたゾーンからの議席要請を、WSCがゾーン議席基準またはゾーン議席プロセスを確立するまで考慮しないことで、ゾーン議席を一時停止する」と決定した。(動議28) 本ガイドに記載された方針は、会議が議席付与の一時停止を可決した2008年当時から変更されていません。

詳細情報が必要な場合は、ワールドボードまでお問い合わせください。

1. 新規地域は、少なくとも3年間サービス機関として機能した後、会議参加者としての認定を申請する資格を得ます。既存地域から分かれた新地域については、新たに形成された地域が独立した組織として少なくとも3年間機能している必要がある。

2.　新規地域は、特定の例外条件がない限り、州・準州・省・国家境界に相当する既定の地理的境界に準拠すべきである。既存地域から分かれた地域は、分離を必要とする特定の条件を満たしていることを証明することで、会議への議席獲得が可能となる。既存地域において、時折地域サービス提供の必要性が生じ、複数の地域が設立されることがある。こうした状況は、NA人口の多さ、地理的距離の大きさ、あるいは言語や慣習の多様性により、サービス委員会とフェローシップ間の効果的かつ直接的なコミュニケーションが妨げられる場合に限定されるべきである。

3.　これらの基準を満たす地域は、世界サービス会議の少なくとも1年前までに、世界理事会へ意向表明書を提出することで、会議参加者としての承認を申請できる。

4. 地域からの通知を受け取った世界理事会は、当該地域に対し、地域内におけるサービス提供の現在および過去の経緯に関する情報の提出を求める。理事会は、提出すべき情報の種類を地域に通知する。

5. 既存の地域から分離して形成される場合、新地域は以下の情報も提出すべきである：新地域形成に至った特別な事情の性質、および新地域創設に際して行われた検討・意思決定プロセスの概要。この声明では、旧地域との何らかの共有サービス（地域集会、ワークショップ、あるいはグループコンシャス収集へのあらゆる形態の参加）への参加によって、新地域が会議で声を聞き続けられることを妨げる特別な事情が存在するかどうかについても言及すべきである。

6. 全リージョンに対し、以下の質問への回答も求められます：
・会議参加者となることを希望する理由は？
・現在のWSCにおいて、貴NAコミュニティの声が十分に反映されていないとお考えですか？そうお考えの場合、その理由は？

・貴コミュニティは、フェローシップのグローバルな意思決定プロセスに積極的な貢献ができるだけのNAサービス及び回復の経験を有しているとお考えですか？そうお考えの場合、その根拠を説明してください。
・会議への参加は地元のNAコミュニティに影響を与えますか？ 影響がある場合、どのように？
・あなたのリージョンが、現在の会議体には存在しない声や価値を会議に付加すると考えますか？
注：2025年中間WSCでは以下の動議が合意により可決され、下記の項目#7は2023-2026サイクル向けにそれに応じて改訂されました。
動議#12：2023-2026サイクルにおいて座席ワークグループを利用しないこと
意図：座席情報と推薦案の収集プロセスを簡素化すること。

7. ワールドボードは、会議参加者（ワールドボードメンバーと地域代表者）で構成されるワークグループをこのプロセス全体に参画させ、
地域と直接連携しながら追加情報を収集し、提供された情報を審査する。理事会、そのワークグループ、および地域間のやり取りは、理事会が必要な情報を全て収集したと満足するまで継続される可能性がある。理事会は、関与するワークグループの支援を得て、次期会議に向けた提言を含む最終報告書を作成する。申請地域は、報告書が会議参加者に配布される前に閲覧でき、会議が検討すべきと考える追加情報を含めることができる。その後、情報報告書はWSC開催前に会議参加者に配布される。地域開発の複雑な性質上、各申請は、地域の最小規模や構造を定める恣意的な基準ではなく、地域固有のサービス課題を解決するため、個別事例ごとに審査される。

8.　WSCへの情報提出後、会議は申請を検討する。正式な会議参加者としての承認には、新規議案が会議の3分の2以上の賛成票を得て可決される必要がある。申請が審議される会議への地域の出席は不要であり、出席のための資金提供も行われない。

9.　新規地域の追加は、その申請が承認された世界サービス会議の閉会をもって発効する。承認後、新たに認定された地域の代議員は自動的に次期WSCへの参加資金が支給される。

WSCにおけるプロセス変更案

過去10年間、本会議では合意形成に基づく意思決定手法の洗練や会議支援のための新技術導入など、多くの変化が生じてきました。より議論中心の会議形態は、WSCが創設されて以来ほぼ同数の年数にわたりWSCの目標であり続けています。1990年代後半に導入された変更は、現在の基盤を築く上で貢献しました。WSCはゆっくりと、しかし意図的に調整を重ねてきました。
その過程で、うまく機能したものもあれば、より適切に機能させるために改良が必要なものでもありました。
毎回の会議で、参加者はWSCのプロセスについて決定を下します。これらの提案されているプロセス変更は、通常CATに含まれます。なぜなら、これらはグループに直接関わる事項ではないからです。しかし、CAR関連討論と決定セッションの開始時に決定されることで、そのセッションで新しいプロセスを活用できるようにするためです。
共同ファシリテーターは動議を提出できないため、理事会は彼らに代わって本WSCで審議される2つの会議方針変更動議を提出します。一つはロールコール投票の廃止、もう一つは会議参加者が決定の再考を求める手続きの正式化です。
また、WSC終了時の「今後の進め方」セッションで提案される可能性のある、プロセス関連の決定事項について、会議参加者に注意喚起します。

ロールコールと投票

現代的な電子意思決定ツールが導入された今日の会議において、点呼投票の使用は時代遅れです。点呼は意思決定を遅らせ、議論に充てるべき時間を奪います。WSCの規模が拡大し、議論中心の会議体へと進化を続ける中、会議時間の有効活用はますます重要となります。
2000年以降のWSCでは点呼投票は最小限に抑えられてきました。最後の点呼投票は2008年WSCで実施され、1回のみ使用されました。（この手続きは2006年に1回、2004年に2回も使用された。）電子投票が導入されて以来、名簿投票は実施されていない。電子投票では、審議対象事項ごとに賛成・反対・棄権・棄権票を投じなかった出席者数を正確に把握できる。これに対し、従来の挙手投票や起立投票では正確な結果を得るのが困難であった。電子投票は各投票への参加者を正確に反映する。個々の会議参加者の投票内容を追跡はしないが、投票が行われた事実と、あらゆる決定事項の正確な票数が確認できる。点呼投票は議事運営上の遺物であり、
合意形成に基づく意思決定において有用な手段ではない。
動議：現行の慣行を反映し、2026年WSC以降、GWSNA（68ページ）から「点呼投票」を削除する。
~~点呼投票 - 会員は誰でも点呼投票を要求できる。要求が認められると、進行役は参加者に問う。点呼投票が支持された場合、進行役は直近の点呼で登録された参加者全員の氏名を呼ぶ。~~
~~指名された参加者は「賛成」「反対」「棄権」「出席・投票せず」のいずれかを回答する。~~
意図：意思決定に不要となった旧式の手続きを廃止する。

決定の再考

会議で動議が決定された後、新たな情報が明らかになる場合がある。過去の決定を再考する機会は、我々の第九の概念と、意思決定プロセスにおける全ての視点の考慮という原則に沿うものである。この選択肢は一見すると議事運営手順への後退に見えるかもしれないが、我々はこれがWSCにとって有益な結果をもたらす可能性を秘めていると確信している。議論を再開する選択肢は共同ファシリテーターの裁量に委ねられており、その決定は常に本会議によって異議申し立てが可能である。共同進行役に必要な裁量権を与えることで、この手段が正当な位置を占め、誤用されないこ

とが保証される。
具体的な使用例を示す：ある動議が合意により可決される。僅差で反対意見がある。その後、同じ議事進行中に新たな情報が浮上し、動議の根拠に誤りがあることが明らかになる。反対者ではなかった参加者Aが再審議を要求し、共同進行役が動議の議論を再開する。
不適切な再審議要求の別の例として、同じ状況下で新たな情報がないにもかかわらず、参加者Aが「さらに検討した結果、反対する」と主張して再審議を要求する場合が挙げられる。共同進行役は新たな情報が提示されていないため、この要求を却下する。
動議：WSCプロセス（67ページ）のGWSNAに、2026年WSC以降における決定再考の選択肢として以下の文言を追加する：
12. 参加者は、同一の議事セッション中（CAR関連決定、CAT関連決定等）において、最終決定で反映された立場に立っており、かつ当該決定事項の当初審議時には存在しなかった新たな情報が提示された場合に限り、決定の再考を請求できる。当該事項の審議再開の可否は共同進行役が裁量で判断する。
意図：新たな情報が明らかになった場合に決定の再考機会を提供すること。

将来に向けた潜在的な決定事項
WSCでは、新たなプロセスを1サイクルまたは1会議期間試行した後、通常はWSC最終日の「将来に向けたセッション」において、継続的な採用の可否を決定することが多い。これにより、新たなプロセスを恒久的な方針として採用する前に、試験運用を行い、必要な調整を加えることが可能となります。
2025年中間WSCでは、現在試験運用中のWSCプロセスに関する2つの動議が可決されました。そのうちの一つはCAR調査プロセスに関するものでした（『NAワールドサービスガイド』21ページ参照）。繰り返し報告してきた通り、CAR調査はWSC2023で開始された新たな計画プロセスの一部である。ワールドボードはCAR調査を含むこのプロセスについて、成功事例と改善案の共有を通じ議論し、WSC全体でもプロセス評価を行う予定だ。この議論と評価を通じて、今後の進捗セッションで本会議に提出するCAR調査に関する提案が具体化される見込みです。
2025年中間WSCで可決されたもう一つの「試験運用」動議は、動議の意思決定プロセスに関するものです。2025年中間WSCの動議1は次のように定めています。「2025年中間WSC及び2026年WSCに限り適用：動議が予備投票で合意形成（賛成または反対が80%以上）に達した場合、共同進行役は結果を最終決定として発表する」
記載通り、これらの動議はWSC2026において有効であり、これまで試みてきた他の多くのプロセスと同様に、順調に進んだ場合、WSC閉会日にこれらのプロセスを恒久的に採用する動議が提出される予定です。

提案：旅費精算方針
会議サイクル 2026–2029

過去のサイクルにおける旅費精算方針からの主な変更点は2つ：
第一に、全旅行者は引き続き経費報告書を提出する必要があるが、領収書の提出は、旅行者が1日当たりの食事・雑費限度額を超過した場合、または航空運賃・その他の交通費・旅行付帯費用に限り必要となる。NAWS資金によるWSC参加者には、空港からホテルまでの往復送迎をカバーするライドシェア券も支給される。
次に、食事・雑費の基準を米国政府の定額基準に改定します。米国内旅行の場合、主要都市の現行日額は86ドル、その他の地域は74ドルです。2023-2026年度の基準より5ドル増額した75ドル/日を提案します。この基準採用により、会計上の裏付け書類が軽減されます。また、次回のWSC開催前に、必要と判断された場合、会議参加者に報告した上でワールドボードが料金引き上げの裁量権を付与されることを要請します。これらの料金体系は、国際旅行および走行距離料金に関する現行の慣行と整合し、記録管理を大幅に削減します。

本方針全般および各変更点の詳細は後述します。本方針は採択された場合、2026年7月1日より発効します。
[注：上記テキストはカバー資料情報であり、GWSNAに掲載される内容の一部ではありません。]

提案される旅費精算方針
会議サイクル 2026-2029

以下にワールドサービス旅行ガイドラインを掲載します。本文書の内容を熟知するよう努めてください。最も頻繁に寄せられる質問については、こちらで対応しています。

留意すべき7つの基本ルール

1. すべての経費精算請求および前渡金精算は、経費報告書フォームで提出しなければなりません。コピーを同封します。また、このフォームは会議参加者ポータル（cpportal.na.org）からもアクセス可能です。
2. すべての精算請求は、旅行またはイベントの最終日から60日以内に提出すること。食事費・雑費定額制の新規運用により書類作業が軽減されたため、会議関連の旅行経費申請書の大半はWSC終了時に一括提出可能となる。
3. 精算対象となるのは、イベントへの往復移動日およびイベント参加日の移動経費のみとする。国際旅行者はイベント前日に追加滞在が必要な場合が多く、これは想定内です。その他の延長滞在は事前の個別承認を得なければならず、承認がない場合は支給対象外となります。
4. 食事以外の支給対象経費がイベントの日当額を超える場合、可能な限り領収書を添付してください。
5. 原本書類（必要に応じて領収書を含む）は全てWSOへ送付してください。
6. 旅費は通常、出発地から目的地までの全行程が対象となります。
7. 電話代その他の雑費は通常、日当で賄われるべきです。

食事と雑費

食事および雑費の最大支給額は1日あたり75米ドル（移動日を含む）です。日によって75米ドルを

超える日や下回る日もあるが、この日当は旅行期間中の合理的な食事・雑費の大半をカバーする見込みである。
この金額は米国政府の食事・雑費（M&IE）基準額を下回るが、これを基に設定されている。この基準額を用いることで、領収書や詳細な会計報告を必要としない食事・雑費の日当が提供される。会議サイクルの長期化に伴い、日当が旅行者の必要を十分に賄えるよう、世界理事会はサイクル中に参加者に通知の上、日当額を変更する権限を有します。これは必要と判断された場合にのみ実施されます。
米国外への旅行の場合、出発前に承認された現地の日当（食事・雑費）が通知されます。現地での食事・雑費日当が通知されます。これが食事・雑費として前払い／払い戻しされる上限額となります。この金額を超過する場合や、別途精算が必要な経費がある場合を除き、領収書の保管・提出は不要です。

【旅行】
日当額を超える全ての旅行経費については、領収書の提出が必須です。航空運賃、相乗り、タクシー代、シャトルサービス、走行距離、その他の地上交通手段、ならびに駐車料金・通行料は精算対象となります。通常の領収書が入手できない場合は、手書きの署名入り領収書を添付してください。一般的に、安全に利用可能な最も経済的な交通手段の使用が求められます。旅行者が資金を出し合ってレンタカーを利用する場合もあります。これにより費用削減が可能となる場合が多いですが、ほとんどの場合事前に承認を得る必要があります。自家用車を使用する場合、出発地から目的地までの走行距離計の読み値と旅行目的を精算請求書に記載してください。この精算請求書が走行距離精算に必要な領収書となります。2026年度の走行距離精算率は1マイルあたり0.725ドルです。この料金は毎年変更され、IRS（米国国税庁）によって設定されます。
WSO-チャッツワースおよびWSCで開催される会議については、ワーナーセンターマリオットホテルまでのエコノミーライドシェア（Uber：UberX、複数名同時利用の場合はUberXLまたはWAV、またはLyft：Lyftまたは共有Lyft）の利用料は領収書提示により精算可能です。
旅行者は出発前に空港往復用Uber利用券を受け取ります。UberBlackやUber/Lyft Luxの追加料金は支給対象外です。基本料金を超える地上交通手段（Uber/Lyft基本料金を超える場合）を利用する場合は事前承認が必要です。

旅行手配手順
航空券は可能な限りWSOまたはその代理店を通じて予約します。旅行者が自身の旅行代理店を通じて予約する場合、チケット発券時に旅程表の写しをWSOへメール送信すること。全旅行者は、予定出発日の少なくとも21日前までに旅行手配を完了すること。これが不可能な場合、旅行者は21日前期限までにWSOへ通知し、特別対応を申請しなければならない。WSC（世界サービス会議）については、参加者数の多さから別途締切が設定される。

経費報告書のサンプル
以下のシナリオは一例です：サム（サマンサでも可）代表は、カリフォルニア州ウッドランドヒルズで開催されるワールドサービスカンファレンスに10日間参加するための資金提供を受けています。サムは航空券を（WSO旅行代理店に提示価格を確認した後）、地元の旅行代理店から購入します。（注：ほとんどの場合、WSO旅行代理店が最も安価です。現地代理店や個人購入は、より安い運賃を確保する手段としてのみ利用すべきです）。
サムは自宅から27マイル離れた空港まで車で移動し、エコノミー駐車場に駐車します。

通常、ホテルルームはNAWSが予約します。ホテルまでの相乗りタクシー代は14.00ドル、
サムは運転手に2.00ドルのチップを渡します。サムはWSCに参加し、多くの回復と奉仕の経験を共有する。ライドシェアで空港へ戻る（チップ込み$16）。飛行機で帰宅。駐車料金は$21。サムは全ての領収書を保管する。$750の前払いを申請し承認された。食事・雑費手当は1日$75。
何が償還対象か？サムはどのように請求書を作成するか？
添付の請求書見本を参照のこと。
・航空券—可（領収書と旅程表をWSOへメール送付）
・空港までの車移動—可（走行距離計の開始値・終了値と移動目的を明記）。片道あたり1マイルあたり0.725ドルで計算（27マイル×0.725ドル＝19.58ドル）
・Uber（チップ含む）—可（1日あたりの日当を超える場合は領収書必要）
・食事—1日あたり最大75ドル（移動日含む）の食事・雑費手当。領収書不要。
・ホテル—可（領収書要）。注：資金提供対象者のWSC宿泊手配はワールドサービス担当。
　返金対象は宿泊費と税金のみ。客室追加料金（映画、電話など）は自己負担。異なるタイムゾーンからの参加者やいびきなどの個人事情がある場合、シングルルーム手配が可能。
ただしワールドサービスによる事前承認が必要で、個人での手配は不可。
・駐車料金—可（領収書要）。

経費報告書に必要事項を記入の上、WSOへ提出。

承認後、サムの請求額（750ドルの前払い金を差し引いた残額）は、WSC開催地で現地処理されるか、次の週次発送で小切手にて郵送されます。サムが請求書を正しく記入し適切な書類（領収書）を添付したため、上記経費は1週間以内（最大2週間）で精算されました。米国外からの旅行者には別途手配が行われます。

日当前払い金

前払い金を受け取った場合、返金不要であっても署名済みの経費報告書を必ず提出してください。これは資金管理のためです。未使用資金も同封してください。

賢明な方への助言

世界サービス旅行ガイドラインと本文書を読んだ後、特定の項目が償還対象となるか不明な場合は、WSOに確認してください。目安として、ワールドサービス旅行ガイドラインに明確に記載されていない事項は、償還請求を計画する場合、事前承認が必要となる可能性が高いです。すべてのポリシーと同様に、旅行者が例外措置を求める必要がある場合もあります。ワールドボード執行委員会は、個別の事情に基づきこれらの要請を検討する権限を有しています。

ご参考になれば幸いです。再度お願いいたしますが、請求はできるだけ早く提出してください。これにより、より迅速な償還が可能となり、旅行予算の管理にも大きく貢献します。

非旅行関連信頼される奉仕者の経費償還

奉仕の義務を果たすために発生した経費の大部分は償還対象となります。全てに領収書が必要であり、購入後90日以内（備品の場合）または請求書発行日（電話/ファックス）から90日以内に提出しなければなりません。

通信ポリシー

IRS（米国国税庁）は、個人的な電話通話を償還対象経費として認めません。特定の業務目的に直接関連する電話通話のみが償還対象経費となります。ワールドサービスの信頼された奉仕者が、承認された、または必要なワールドサービス業務の過程で発生した電話、インターネット、ファックスの費用は、以下の手順で償還対象となります。

♦ 配分はプロジェクト、活動、または任務ごとに決定されます。特に許可がない限り、これらの配分は月次支出を対象とします。

♦ すべての電話およびインターネット費用は、証明が必要です。

♦ 個人の費用は、毎月、または請求書が利用可能になった時点でWSOに提出してください。

♦ ワールドサービスよりインターネット専用回線の設置が承認された場合、設置費用および月額回線料金は（領収書提示により）償還対象となります。場合によってはNAWSへ直接請求されることもあります。これらの接続はワールドサービスとの信頼性ある通信を確保するために提供されます。

その他

償還対象と考えるその他の経費は、領収書を添付した経費報告書に「その他」として提出してください。

アリゾナ地域からのCAT資料投稿に関する提案

提案内容：
NAWSスタッフ・タイム・アンド・マテリアルズが、年次報告書において、恵まれない地域社会向け補助・無料文献と収監メンバー向け文献の会計処理を明確に区別すること。商品原価と小売価格の項目番号を含めること。

意図：
寄付された補助価格・無料文献がNAWSによってどのように処理されているかを、グループとメンバーに完全に知らせるため。これにより、グループはNAWS予算について情報に基づいた決定を下せる。

スティーブン・S、アリゾナ州代表チーム
rd@arizona-na.org
www.arizona-na.org
州内専用電話 844.991.2962